

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	学部の設置										
フリガナ設置者	カゴシマコクサイジン ツマカリカクエン 学校法人 津曲学園										
フリガナ大学の名称	カゴシマコクサイダイガク 鹿児島国際大学 (The International University of Kagoshima)										
大学本部の位置	鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号										
大学の目的	鹿児島島の進取開明の伝統を継承しつつ、東西文化の融合と地域社会への貢献を趣旨とする建学の精神に則り、学術的知識・技能の教育研究を推進し、国際社会及び地域社会の発展に寄与しうる人材を養成することを目的とする。										
新設学部等の目的	看護学部は、看護学を発展させるための専門的な教育研究を行い、あらゆるのちに思いやりと関心を持ち、その尊厳を護りつつ、倫理的・科学的態度を基に、人々の健康的な暮らしの実現に向けて、看護できる人材を養成することを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学部 (Faculty of Nursing) 看護学科 (Department of Nursing)  計	4年	80人	-年次人	320人	学士 (看護学) (Bachelor of Science in Nursing)	令和5年4月 第1年次	鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号 鹿児島県鹿児島市下伊敷一丁目52番17号			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	経済学部 経済学科 [定員減] (△30) (令和5年4月) 経営学科 [定員減] (△30) (令和5年4月) 福祉社会学部 社会福祉学科 [定員減] (△10) (令和5年4月) 国際文化学部 国際文化学科 [定員減] (△5) (令和5年4月) 音楽学科 [定員減] (△5) (令和5年4月)										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	129 単位					
教員の組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
	新設分	看護学部 看護学科			8人 (7)	6人 (6)	4人 (4)	8人 (8)	26人 (25)	3人 (4)	101人 (75)
		計			8 (7)	6 (6)	4 (4)	8 (8)	26 (25)	3 (4)	- (-)
	既設分	経済学部 経済学科			10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	57 (57)
		経営学科			11 (11)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	63 (63)
		福祉社会学部 社会福祉学科			7 (7)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	83 (83)
		児童学科			7 (7)	9 (9)	1 (1)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	67 (67)
		国際文化学部 国際文化学科			15 (15)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	59 (59)
		音楽学科			7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	77 (77)
	計			57 (57)	29 (29)	7 (7)	1 (1)	94 (94)	0 (0)	- (-)	
合計			65 (64)	35 (35)	11 (11)	9 (9)	120 (119)	3 (4)	- (-)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		73 人 ( 73 )	22 人 ( 22 )	95 人 ( 95 )					
	技 術 職 員		0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )					
	図 書 館 専 門 職 員		4 ( 4 )	0 ( 0 )	4 ( 4 )					
	そ の 他 の 職 員		0 ( 0 )	9 ( 9 )	9 ( 9 )					
計		77 ( 77 )	31 ( 31 )	108 ( 108 )						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	80,791㎡	0 ㎡	0 ㎡	80,791㎡	【伊敷キャンパス】 定期建物賃貸借契約 借入面積 9,177㎡				
	運 動 場 用 地	117,092㎡	0 ㎡	0 ㎡	117,092㎡	借入建物の建築面積合計 建築面積 3,652㎡				
	小 計	197,883㎡	0 ㎡	0 ㎡	197,883㎡	借用期間 21年間				
	そ の 他	343㎡	0 ㎡	0 ㎡	8,523㎡	事業用定期借地権設定契約 公正証書				
合 計	198,226㎡	0 ㎡	0 ㎡	206,406㎡	土地借入面積 867㎡ 借用期間 22年2カ月間					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		45,594㎡ ( 41,463㎡ )	0 ㎡ ( 3,262 ㎡ )	0 ㎡ ( 869 ㎡ )	45,594㎡ ( 45,594㎡ )	【伊敷キャンパス】 校舎 6,522㎡ 令和5年度の1年のみ鹿 児島医療センター附属鹿 児島看護学校の学生と校 舎を共用				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	39 室	32 室	81 室	4 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)	【伊敷キャンパス】 講義室4室、演習室17室 実験実習室6室				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学部	看護学科	22 (共同研究室1室含む)		室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で共用 【坂之上キャンパス】 図書653,253冊		
	看護学部 看護学科	13,884 [879] (12,574 [769])	43 [1] (43 [1])	1 [1] ( 1 [ 1 ] )	98 ( 62 )	5,317 (4,038)	0 ( 0 )	〔うち外国書〕133,623冊 学術雑誌8,924種 〔うち外国書〕1,027種 電子ジャーナル 1 〔うち外国書〕1 視聴覚資料37,858点		
	計	13,884 [879] (12,574 [769])	43 [1] (43 [1])	1 [1] ( 1 [ 1 ] )	98 ( 62 )	5,317 (4,038)	0 ( 0 )	機械・器具 8,706点 標本 0点 ※電子ジャーナルは1種 40誌相当のバックジェ サービス		
図書館	面積	閲覧席数		収 納 可 能 冊 数						
	8,309 ㎡	549		697千冊		【伊敷キャンパス】 面積 408㎡ 閲覧席数 49席 収納可能冊数 27千冊				
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	11,068 ㎡	野球場、テニスコート、弓道場、洋弓場、柔道場、剣道場、空手道場、少林寺拳法練習場、ボクシング練習室、卓球練習室、多目的練習室、射撃場などがある。					屋内運動場 面積 652㎡			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		350千円	350千円	350千円	350千円	—	—	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—	—	
		図書購入費	18,570千円	10,785千円	10,948千円	7,642千円	8,195千円	—	—	
	設備購入費	183,644千円	87,815千円	33,047千円	0千円	0千円	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,760千円	1,510千円	1,510千円	1,510千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金他、学園全体の資産運用収入及び事業収入を充当する							

大学等の状況	大学の名称		鹿児島国際大学						所在地
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	経済学部						0.83		鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号
	経済学科	4	170	—	770	学士(経済学)	0.83	昭和35年度	
	経営学科	4	150	—	690	学士(経営学)	0.83	昭和40年度	
	福祉社会学部						0.98		
	社会福祉学科	4	90	—	390	学士(社会福祉学)	0.79	昭和57年度	
	児童学科	4	120	—	480	学士(児童学)	1.13	平成13年度	
	国際文化学部						0.92		
	国際文化学科	4	115	—	475	学士(国際文化学)	0.99	平成23年度	
	音楽学科	4	30	—	135	学士(音楽)	0.68	平成22年度	
	《大学院》								
	経済学研究科						0.76		
	地域経済政策専攻博士前期課程(修士課程)	2	10	—	20	修士(経済学)	0.77	平成11年度	
	地域経済政策専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士(経済学)	0.74	平成13年度	
	福祉社会学研究科						0.51		
	社会福祉学専攻博士前期課程(修士課程)	2	10	—	20	修士(社会福祉学)	0.4	平成13年度	
	社会福祉学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士(社会福祉学)	0.91	平成19年度	
	国際文化研究科						1.13		
国際文化専攻博士前期課程(修士課程)	2	10	—	20	修士(国際文化学)	1.22	平成16年度		
国際文化専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士(国際文化学)	0.83	平成19年度		
	<p>1. 図書館</p> <p>①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号</p> <p>②設置年月 1936年(昭和11年)2月 鹿児島高等商業学校附属図書館として発足。現在の図書館は1994(平成6)年4月開館</p> <p>③規模等 7,902㎡(地下1階,地上4階) 収蔵能力67万冊(現在66万冊),閲覧席 500席</p> <p>図書館は,専門的資料や電子資料,ICTに対応した機器を整備し,利用者の自学自習及び研究を支援している。学内の端末からは図書館蔵書検索やデータベースが利用でき,電子ブックの閲覧は学内外からアクセス可能である。</p> <p>地下と1階は閉架書庫,2階と3階は開架書架と閲覧室となっている。2階にはサービスカウンターの他,新聞コーナー,児童書室,ラーニングcommonsなどを配置。3階には雑誌コーナー,DVDなどが鑑賞できるAVコーナー及びAVルーム,点字図書を取めた対面朗読室を兼ねる視覚障がい者閲覧室,グループ学習室,研究個室などを配置。また,2階,3階ともに学生が自由に使用できるパソコンが整備されている。4階には138人収容の視聴覚ホールがあり,学会・音楽会等,多目的に使用されている。</p> <p>また,楽譜や音楽理論書,CD・DVDなどを収蔵する分室のオーディオルームがあり,CD等を視聴できる機器も完備している。</p> <p>2. 情報処理センター</p> <p>①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号</p> <p>②設置年月 1990年(平成2年)4月</p> <p>③規模等 452㎡ 情報処理センター事務室,中央処理室,プログラミング室,共同研究室,カフェテリア室等</p> <p>情報処理センターは,学術研究,情報処理教育及び学内業務のための情報処理を行い,その研究・開発・推進に寄与し,教育の向上発展に資することを目的としている。また,ICT環境の基盤となる鹿児島国際大学情報システム(学内LAN)の運用・管理も行っており,情報化社会に対応したネットワークの高速化や無線LAN環境及びセキュリティ対策等の整備も進めている。</p>								

附属施設の概要

3. 産学官地域連携センター

①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号  
 ②設置年月 2015年(平成27年)4月  
 ③規模等 1,292㎡ (※地域総合研究所及び生涯学習センターと共用)  
 産学官地域連携センターは、地域と大学を結ぶパイプ役として、地域の課題(ニーズ)と大学の資源(シーズ)のマッチングを行い、フィールドワーク等の教育活動を全学的な取組として支援している。平成27年度に鹿児島県内2校目として文部科学省「地(知)の拠点大学」に認定され、地域を志向した科目等での学びやフィールドワークを通して、地域の課題発見・解決に向けて主体的に仕事ができる人材を育成するとともに、地元鹿児島に貢献できる行動力のある学生の育成を目指す。令和2年度現在、9つの事業協働機関及び8つの事業協働地域(自治体)と協定に基づいた取組を展開している。

4. 地域総合研究所

①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号  
 ②設置年月 1968年(昭和43年)1月「地域経済研究所」として発足、1986年(昭和61年)4月「地域総合研究所」に改組  
 ③規模等 1,292㎡ (※産学官地域連携センター及び生涯学習センターと共用)  
 全面開架書架、資料コーナー、雑誌・新聞コーナー、ワークステーションコーナー、プロジェクトルーム、研修室、会議室、所長室、所員室、事務室等  
 地域総合研究所では、諸地域の学術研究・調査及び資料の収集に重点を置いている。総合テーマ「南九州・沖縄の経済・社会・文化」のもとに、機関研究プロジェクトチームを組織して研究を進めてきた。平成20年度からは鹿児島に密着した新しい研究プロジェクト「地域における知のネットワーク」を始動。平成28年度からは「鹿児島の地方創生に関する総合的研究」、平成30年度から「鹿児島を支える経済・福祉・文化に関する研究」、令和2年度より「鹿児島における観光資源の創出に関する研究」をテーマとする共同研究プロジェクトを立ち上げ、各回6名の所員で研究を進めている。共同プロジェクトのほか、平成29年度から5年間、寄付金による「清水基金プロジェクト」研究も実施している。そういった活動が評価され、近年は委託事業も年3~4件程度の実績がある。これらの研究成果は研究所発刊の紀要「地域総合研究」(年2回)で発表し、地域の諸問題を研究している。

5. 生涯学習センター

①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号  
 ②設置年月 2001年(平成13年)に開設  
 ③規模等 1,292㎡ (※産学官地域連携センター及び地域総合研究所と共用)  
 生涯学習センターは、大学の持つ高度な研究・教育の機能を地域及び社会に開放し、学ぶ意欲を持つ住民の探究心に応えることにより、地域社会との連携を深め、地域の学術・文化の拠点としての大学の社会的役割を果たすことを目的としている。

6. 研究教育開発センター

①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号  
 ②設置年月 2006年(平成18年)4月  
 ③規模等 71㎡  
 研究教育開発センターは、本学における全学的な教育の質向上の全面的な責任を担い、「学生に満足感・充実感を提供する教育」を目指し、教育施策を実施するとともに、教育活動の継続的な改善の推進及び支援業務を行っている。

7. 児童相談センター

①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号  
 ②設置年月 1985年(昭和60年)5月  
 ③規模等 129㎡  
 児童相談センターは、福祉社会学部附属施設として開設され、地域社会への奉仕や教員・学生・院生の臨床の場とすることを目的として設置された。現在では、地域に開かれた形での相談活動をはじめ、学生相談室や学生課と連携した相談活動等もを行っている。なお、毎年年間100件を越す相談件数があり、年々相談件数も増加傾向にある。

8. 博物館実習施設

①所在地 鹿児島県鹿児島市坂之上8丁目34番1号  
 ②設置年月 2002年(平成14年)4月  
 ③規模等 207㎡  
 国際文化学部付属の博物館実習を実施する施設として、また学術研究及び一般市民の教育に寄与することを目的として開設され、平成16年3月に博物館相当施設に指定された。幅広いテーマの展示を通じて一般市民への教育活動を展開しつつ、博物館学芸員資格課程の実習生を展示作業などの運営に受け入れ、実践的な能力を備えた学芸員の育成に努めている。

教育課程等の概要																			
(看護学部看護学科等)																			
科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
看護学科 共通教育科目	基礎科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナール	1前	2				○			4	4	3	4	2	オムニバス・共同(一部)		
		数理・データサイエンス・AI	データサイエンス・AI入門	1前	2			○										兼1	
			情報処理	1前	2			○										兼1	
			確率と統計	1後	2			○										兼1	
		キャリアデザイン	人間	コミュニケーション力育成	1前後	2				○									兼2
				キャリア形成のための一般教養Ⅰ	1前	2			○										兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅱ	1後	2			○										兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅲ	3前	2			○										兼1
			暮らし	キャリア形成のための一般教養Ⅳ	3後	2			○										兼1
				論理的思考と数的処理	2後	2			○										兼1
				キャリア形成のための文章力育成	3前	2			○									兼1	
		小計(11科目)	—	4	18	0		—			4	4	3	4	2	兼6	—		
看護学科 共通教育科目	人間教養科目	人文科学	人間	日本文学	1前後	2			○								兼2		
				外国文学	1前	2			○									兼1	
				音楽文化論	1後	2			○									兼3	
				日本史	1前後	2			○									兼2	
				西洋史	1前後	2			○									兼1	
				東洋史	1前後	2			○									兼1	
				東西文化の交流	1前	2			○									兼1	
				哲学	1前後	2			○									兼1	
				倫理学	1前後	2			○									兼1	
				心理学	1前後	2			○									兼3	
				小計(10科目)	—	0	20	0		—			0	0	0	0	0	兼16	—
		社会科学	暮らし	法学	1前	2			○								兼1		
				日本国憲法	1前後	2			○								兼1		
				政治学	1前	2			○								兼1		
				経済学	1前後	2			○								兼3		
				社会学	1後	2			○								兼1		
				地理学	1前	2			○								兼1		
				小計(6科目)	—	2	10	0		—			0	0	0	0	兼8	—	
		自然科学	暮らし	数学Ⅰ	1前	2			○								兼1		
				数学Ⅱ	1後	2			○								兼1		
			いのち	生命科学	1前後	2			○								兼1		
				環境科学	1前後	2			○								兼2		
				小計(4科目)	—	0	8	0		—			0	0	0	0	兼3	—	
看護学科 共通教育科目	地域志向	人間	暮らし	地域創生Ⅰ	1前	2			○								兼1		
				地域創生Ⅱ	1後	2			○								兼1		
				Japanology	1後	2			○								兼5		
				地域から世界へ	1前	2			○								兼1		
				かごしま教養プログラム	1前	2				○							兼2		
				かごしまフィールドスクール	1前	2				○							兼2		
				ボランティア活動	1後	2					○						兼1		
				海外インターンシップ	2前後	3					○						兼4		
				教養特講Ⅰ	1前	2			○								兼1		
				教養特講Ⅱ	1後	2			○								兼1		
		教養特講Ⅲ	1前	2			○								兼1				
		小計(11科目)	—	0	23	0		—			0	0	0	0	0	兼15	—		
看護学科 共通教育科目	コミュニケーションスキル科目	英語	コア	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1前	1			○								兼6		
				英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1後	1			○								兼6		
				英語海外研修	1前	2					○						兼1		
			関連	英語リーディング	1前後	1			○									兼4	
				英語ライティング	1後	1			○									兼3	
				英文読解の技法	1前	2			○									兼1	
				TOEIC・TOEFL対策	1後	2			○									兼1	
				コミュニケーションのための英文法	1前	2			○									兼1	
				Global Economy and Business	1後	2			○									兼9	
				小計(9科目)	—	2	12	0		—			0	0	0	0	0	兼16	—
				第二外国語	中国語	基礎中国語Ⅰ	1前	1			○								兼1
		基礎中国語Ⅱ	1後		1			○								兼1			
		フランス語	基礎フランス語Ⅰ		1前	1			○							兼1			
		基礎フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1				
		ドイツ語	基礎ドイツ語Ⅰ		1前	1			○							兼1			
			基礎ドイツ語Ⅱ	1後	1			○							兼1				
		韓国語	基礎韓国語Ⅰ	1前	1			○								兼2			
			基礎韓国語Ⅱ	1後	1			○							兼2				
			韓国語海外研修	1前	2				○							兼1			
			小計(9科目)	—	0	10	0		—			0	0	0	0	0	兼6	—	

科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護学科共通教育科目	スポーツ・健康科目	講義	日常生活に生かすスポーツ科学 現代社会とスポーツ	1前後 1前後	2 2		○ ○								兼1 兼1			
		実習	健康	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1前後 1前後 1前後 1前 1前後	1 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○						兼2 兼3 兼2 兼1 兼2		
	小計（7科目）		—	2	7	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	—		
	看護学科専門基礎科目		人間	いのち	いのちをはぐくむ地球 地球で生きるいのち	1前 1後	1 1		○ ○								兼1 兼1	集中
				暮らし	教育方法学	教育方法学	1前		2		○							兼1
		文化人類学			文化人類学	1前		2		○							兼1	
社会心理学		社会心理学			1後		2		○							兼1		
日本史特論		日本史特論			1後		2		○							兼1		
鹿児島県の歴史		鹿児島県の歴史			1前		2		○							兼1		
生涯発達論		生涯発達論			2後	2			○							兼1		
健康		地域社会論		地域社会論	1前		2		○							兼1		
		まちづくり概論		まちづくり概論	1前		2		○							兼1		
		地域経済論		地域経済論	1後		2		○							兼1		
		環境経済論Ⅰ		環境経済論Ⅰ	1前		2		○							兼1		
		環境経済論Ⅱ		環境経済論Ⅱ	1後		2		○							兼1		
		医療情報活用論		医療情報活用論	2後	1			○							兼1		
		暮らしをまもる制度		暮らしをまもる制度	2後	1			○							兼1		
		からだの仕組みと働きⅠ		からだの仕組みと働きⅠ	1前	1			○							兼1		
		からだの仕組みと働きⅡ	からだの仕組みと働きⅡ	1後	1			○							兼1			
		代謝と栄養	代謝と栄養	1後	1			○							兼2	オムニバス		
		からだの異常と発生メカニズム	からだの異常と発生メカニズム	1後	1			○							兼1			
		感染と防御	感染と防御	1後	1			○							兼1			
		からだの異常の診断技術	からだの異常の診断技術	1後	1			○							兼2	オムニバス		
		薬理学	薬理学	2前	1			○							兼1			
		働く人の健康	働く人の健康	1後	1			○							兼1			
		健康障害とその治療Ⅰ	健康障害とその治療Ⅰ	2前	1			○							兼4	オムニバス		
健康障害とその治療Ⅱ		健康障害とその治療Ⅱ	2前	1			○							兼6	オムニバス			
健康障害とその治療Ⅲ		健康障害とその治療Ⅲ	2前	1			○							兼2	オムニバス			
健康障害とその治療Ⅳ		健康障害とその治療Ⅳ	2後	1			○							兼2	オムニバス			
保健統計学		保健統計学	2前	1			○							兼1				
疫学		疫学	2前	2			○							兼1				
健康をまもる法律		健康をまもる法律	2前	1			○							兼1				
保健医療福祉行政論		保健医療福祉行政論	2前	2					○	1	1				兼1	共同（一部） ※講義		
小計（31科目）		—	24	20	0	—			1	1	0	0	0	0	兼40	—		
看護学科専門教育科目	看護導入科目	いのち	いのちと看護	1後	1			○			3	1	1	1	2	兼1	共同（一部） ※演習	
		人間	人間と看護	2前	1			○			1		1	3	2	兼1	共同（一部） ※演習	
		暮らし	暮らしと看護	2後	1			○			1	3		4		兼1	共同（一部） ※演習	
		健康	健康と看護	2後	1			○			1	3		2	1	兼1	共同（一部） ※演習	
		看護	看護への招待	1前	1			○			7					兼1	共同（一部） ※演習	
	小計（5科目）	—	5	0	0	—			8	6	2	7	4	0	兼3	—		
看護実践コア科目	看護	看護学概論	看護学概論	1後	1			○			1	1				兼1	オムニバス	
		援助関係論	援助関係論	1後	1			○			1	1		4	2	兼1	共同（一部） ※演習	
		看護倫理	看護倫理	2後	1			○			1					兼1	オムニバス	
		生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能	生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能	1前	1				○		1	2	3	3	2	兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能	生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能	1前	1				○		1	2	3	3	2	兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能	生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能	1後	1				○		2	1	2	4	2	兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能	生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能	1後	1				○			1	4	5	1	兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能	生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能	2前	1				○		2	2	2	5		兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能	生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能	2前	1				○		1	3	2	5		兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能	生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能	2後	1				○		2		3	4	2	兼1	共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助	生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助	2後	1				○		1	3	2	4	1	兼1	オムニバス・共同（一部） ※講義	
		生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開	生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開	2後	1				○		3	3	4	7	2	兼1	共同	
		家族看護論	家族看護論	2後	1				○		1					兼1	オムニバス	
		看護展開基礎論	看護展開基礎論	2前	1				○		8	1	2	3		兼1	共同（一部） ※演習	
		看護展開基礎実習	看護展開基礎実習	2前	2				○		6	3	4	5	3	兼1	共同	
小計（15科目）	—	16	0	0	—			8	5	4	8	4	4	兼3	—			

科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康増進看護		健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	1後	1			○				3					オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	1後	1			○				2	1				オムニバス
		健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	1後	1			○				1	1				オムニバス
		健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	1後	1			○					1				オムニバス
		健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	2前	1				○			1				1	※講義
		健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	2後	1				○				2			1	オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	2後	1				○			1	2			1	オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動	2後	1				○				2			1	オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康増進ケア論実習	3前後	3						○	1	2			1	共同
		小計(9科目)	—	11	0	0	—	—	—	—	4	5	1	0	1	0
健康回復看護	看護実践能力育成科目	健康回復看護総論	2前	1			○				2				兼1	オムニバス
		健康回復過程論Ⅰ：急性-回復期・治療過程における看護	2前	1			○				1	2		3	2	オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護	2前	1			○				2	1	1	3	1	オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	2後	1			○				1	2		3	2	オムニバス・共同(一部) ※演習
		成育健康回復ケア概論	2前	1			○				2		1			オムニバス
		成人老年健康回復ケア概論	2前	1			○				2					オムニバス
		精神・在宅健康回復ケア概論	2前	1			○				2					オムニバス
		成育健康回復ケア論Ⅰ	2前	1			○				2		1	1		オムニバス・共同(一部) ※演習
		成育健康回復ケア論Ⅱ	2後	1				○			2		1	1	2	オムニバス・共同(一部)
		成人健康回復ケア論	2後	1			○				1	2		4	1	オムニバス・共同(一部) ※演習
		老年健康回復ケア論	2後	1			○				1		1	5	1	共同(一部) ※演習
		精神健康回復ケア論	2後	1			○				1	1		4	2	共同(一部) ※演習
		在宅健康回復ケア論	2後	1			○				1	1	1	2	3	オムニバス・共同(一部) ※演習
		健康回復看護総論実習	2前	1						○	7	1	2	2		共同
		成育健康回復ケア論実習Ⅰ	3前後	3						○	2		1	1	2	共同
		成育健康回復ケア論実習Ⅱ	3前後	3						○	2		1	1	2	共同
		成人健康回復ケア論実習	3前後	3						○	1	2		1		共同
		老年健康回復ケア論実習	3前後	3						○	1		1	1	1	共同
		精神健康回復ケア論実習	3前後	3						○	1	1		2		共同
		在宅健康回復ケア論実習	3前後	3						○	1	1		2		共同
小計(20科目)	—	32	0	0	—	—	—	—	7	4	4	8	4	兼1	—	
長期療養生活	看護実践能力育成科目	長期療養生活看護総論	3後	1			○				1					共同(一部)
		長期療養生活ケア論	4前	1			○				2			3		※演習
		長期療養生活ケア論実習	4前	2					○		1	1	2	3		共同
小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	—	1	2	2	5	0	0	—	
統合科目	学部横断科目	健康増進ケア論発展実習	4前	2					○	1	2			1		共同
		看護管理論	4前	1			○				2					オムニバス
		看護統合演習	4後	1				○			8	1	1			オムニバス
		地域包括チームケア論	3後	1			○				1	3	1	3		オムニバス・共同(一部) ※演習
		災害支援論	3後	1			○				2	3	1	2		兼2 オムニバス・共同(一部) ※演習
小計(5科目)	—	6	0	0	—	—	—	—	8	6	3	5	1	兼2	—	
看護探究科目	探究	暮らし探索フィールドワーク	1後	1				○		1	4	2	7	2		共同
		看護研究	2後	1			○			1		2				共同(一部) ※演習
		卒業研究Ⅰ	4前	1			○			8	6	3				共同
		卒業研究Ⅱ	4後	1			○			8	6	3				共同
		看護キャリア発達論	4後	1			○			3						オムニバス・共同(一部) ※演習
小計(5科目)	—	5	0	0	—	—	—	—	8	6	4	7	2	0	—	
合計(160科目)			—	113	128	0	—	—	—	8	6	4	8	4	兼101	—
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
「共通教育科目」で必修10単位、選択8単位以上、「専門基礎科目」で必修24単位、選択必修8単位以上、「専門科目」で必修79単位以上を修得し、合計129単位以上を修得すること。履修科目の登録上限は48単位(年間)とする。							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要																		
(看護学部看護学科等)																		
科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護学科共通教育科目	基礎科目	数理・データサイエンス・AI	データサイエンス・AI入門 情報処理 確率と統計	1前 1前 1後	2 2 2		○ ○ ○								兼1 兼1 兼1			
		キャリアデザイン	人間	コミュニケーション力育成 キャリア形成のための一般教養Ⅰ キャリア形成のための一般教養Ⅱ キャリア形成のための一般教養Ⅲ キャリア形成のための一般教養Ⅳ	1前後 1前 1後 3前 3後	2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○	○								兼2 兼1 兼1 兼1 兼1	
			暮らし	論理的思考と数的処理 キャリア形成のための文章力育成	2後 3前	2 2		○ ○									兼1 兼1	
	小計(10科目)			—	2	18	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼6	—	
	人文学		人間	日本文学 外国文学 音楽文化論 日本史 西洋史 東洋史 東西文化の交流 哲学 倫理学 心理学	1前後 1前 1後 1前後 1前後 1前後 1前 1前後 1前後 1前後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○									兼2 兼1 兼3 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼3	
			小計(10科目)		—	0	20	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼16	—
		社会科学	暮らし	法学 日本国憲法 政治学 経済学 社会学 地理学	1前 1前後 1前 1前後 1後 1前	2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○									兼1 兼1 兼1 兼3 兼1 兼1	
			小計(6科目)		—	2	10	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼8	—
			自然科学	暮らし	数学Ⅰ 数学Ⅱ	1前 1後	2 2		○ ○									兼1 兼1
				いのち	生命科学 環境科学	1前後 1前後	2 2		○ ○									兼1 兼2
				小計(4科目)		—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼3
		地域志向	暮らし	地域創生Ⅰ 地域創生Ⅱ	1前 1後	2 2		○ ○									兼1 兼1	
			人間	Japanology 地域から世界へ かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール	1後 1前 1前 1前	2 2 2 2		○ ○ ○ ○	○ ○								兼5 兼1 兼2 兼2	
			暮らし	ボランティア活動 海外インターンシップ	1後 2前後	2 3				○ ○							兼1 兼4	
	人間		教養特講Ⅰ 教養特講Ⅱ 教養特講Ⅲ	1前 1後 1前	2 2 2		○ ○ ○									兼1 兼1 兼1		
暮らし	小計(11科目)		—	0	23	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼15	—		
コミュニケーションスキル科目	英語		コア	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1前 1後	1 1		○ ○								兼6 兼6		
				関連	英語海外研修 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法	1前 1前後 1後 1前	2 1 1 2		○ ○ ○ ○	○							兼1 兼4 兼3 兼1	
		TOEIC・TOEFL対策 コミュニケーションのための英文法 Global Economy and Business	1後 1前 1後		2 2 2		○ ○ ○								兼1 兼1 兼9			
		小計(9科目)	—		2	12	0	—	0	0	0	0	0	0	0	兼16	—	
		第二外国語	中国語	基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ	1前 1後	1 1		○ ○									兼1 兼1	
	フランス語		基礎フランス語Ⅰ 基礎フランス語Ⅱ	1前 1後	1 1		○ ○									兼1 兼1		
	ドイツ語		基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	1前 1後	1 1		○ ○									兼1 兼1		
	韓国語		基礎韓国語Ⅰ 基礎韓国語Ⅱ	1前 1後	1 1		○ ○									兼2 兼2		
			韓国語海外研修	1前	2				○							兼1		
	小計(9科目)	—	0	10	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼6	—		



科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
看護学科 共通教育科目	スポーツ・健康科目	講義	日常生活に生かすスポーツ科学 現代社会とスポーツ	1前後 1前後	2 2		○ ○								兼1 兼1			
		実習	健康	スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1前後 1前後 1前後 1前 1前後	1 1 1 1 1				○ ○ ○ ○ ○						兼2 兼3 兼2 兼1 兼2		
			小計（7科目）	—	2 7 0		—		0 0 0 0 0						兼3	—		
	看護学科 専門教育科目	専門基礎科目	看護構想科目	いのち	地球で生きるいのち	1後	1		○							兼1		
				人間	教育方法学	1前	2		○									兼1
					文化人類学	1前	2		○									兼1
社会心理学					1後	2		○									兼1	
日本史特論					1後	2		○									兼1	
鹿児島歴史					1前	2		○									兼1	
暮らし				地域社会論	1前	2		○									兼1	
				まちづくり概論	1前	2		○									兼1	
				地域経済論	1後	2		○									兼1	
				環境経済論Ⅰ	1前	2		○									兼1	
				環境経済論Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		小計（11科目）	—	1 20 0		—		0 0 0 0 0						兼9	—			
合計（77科目）				—	9 128 0		—		0 0 0 0 0					兼66	—			
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
「共通教育科目」で必修10単位、選択8単位以上、「専門基礎科目」で必修24単位、選択必修8単位以上、「専門科目」で必修79単位以上を修得し、合計129単位以上を修得すること。 履修科目の登録上限は48単位（年間）とする。							1学年の学期区分			2期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業時間			90分								

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科等)															
科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	暮らし	新入生ゼミナール	1前	2				○		4	4	3	4	2	オムニバス・共同(一部)
		小計(1科目)	-	2	0	0	-	-	4	4	3	4	2	-	
専門基礎科目	暮らし	いのちをはぐくむ地球	1前	1			○								兼1 集中
		生涯発達論	2後	2			○								兼1
		医療情報活用論	2後	1			○								兼1
		暮らしをまもる制度	2後	1			○								兼1
		からだの仕組みと働きI	1前	1			○								兼1
		からだの仕組みと働きII	1後	1			○								兼1
		代謝と栄養	1後	1			○								兼2 オムニバス
		からだの異常と発生メカニズム	1後	1			○								兼1
		感染と防御	1後	1			○								兼1
		からだの異常の診断技術	1後	1			○								兼2 オムニバス
		薬理学	2前	1			○								兼1
		働く人の健康	1後	1			○								兼1
		健康障害とその治療I	2前	1			○								兼4 オムニバス
		健康障害とその治療II	2前	1			○								兼6 オムニバス
		健康障害とその治療III	2前	1			○								兼2 オムニバス
		健康障害とその治療IV	2後	1			○								兼2 オムニバス
		保健統計学	2前	1			○								兼1
		疫学	2前	2			○								兼1
		健康をまもる法律	2前	1			○								兼1
		保健医療福祉行政論	2前	2				○		1	1				共同(一部) ※講義
小計(20科目)	-	23	0	0	-	-	-	1	1	0	0	0	兼31	-	
看護学科専門教育科目	暮らし	いのちと看護	1後	1			○			3	1	1	1	2	共同(一部) ※演習
		人間と看護	2前	1			○			1		1	3	2	共同(一部) ※演習
		暮らしと看護	2後	1			○			1	3		4		共同(一部) ※演習
		健康と看護	2後	1			○			1	3		2	1	共同(一部) ※演習
		看護への招待	1前	1			○			7					共同(一部) ※演習
		小計(5科目)	-	5	0	0	-	-	8	6	2	7	4	0	-
専門科目	看護	看護学概論	1後	1			○			1	1				兼1 オムニバス
		援助関係論	1後	1			○			1	1		4	2	共同(一部) ※演習
		看護倫理	2後	1			○			1					兼1 オムニバス
		生活機能援助論I：安全をまもる機能	1前	1				○		1	2	3	3	2	共同(一部) ※講義
		生活機能援助論II：生きるを支える機能	1前	1				○		1	2	3	3	2	共同(一部) ※講義
		生活機能援助論III：食物・水分摂取を支える機能	1後	1				○		2	1	2	4	2	共同(一部) ※講義
		生活機能援助論IV：排便・排尿を支える機能	1後	1				○			1	4	5	1	共同(一部) ※講義
		生活機能援助論V：動くを支える機能	2前	1				○		2	2	2	5		共同(一部) ※講義
		生活機能援助論VI：休むと情報交換を支える機能	2前	1				○		1	3	2	5		共同(一部) ※講義
		生活機能援助論VII：子どもを産み育てることを支える機能	2後	1				○		2		3	4	2	共同(一部) ※講義
		生活機能援助論VIII：救命救急・診療の補助	2後	1				○		1	3	2	4	1	オムニバス・共同(一部) ※講義
		生活機能援助論IX：在宅展開・事例展開	2後	1				○		3	3	4	7	2	共同
		家族看護論	2後	1				○		1					兼1 オムニバス
		看護展開基礎論	2前	1				○		8	1	2	3		共同(一部) ※演習
		看護展開基礎実習	2前	2					○	6	3	4	5	3	共同
小計(15科目)	-	16	0	0	-	-	-	8	5	4	8	4	兼3	-	

科目区分	主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
健康増進看護		健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	1後	1			○				3					オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	1後	1			○				2		1			オムニバス	
		健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	1後	1			○				1	1				オムニバス	
		健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	1後	1			○					1				オムニバス	
		健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	2前	1				○			1				1	※講義	
		健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	2後	1				○				2			1	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	2後	1				○			1	2			1	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動	2後	1				○				2			1	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康増進ケア論実習	3前後	3					○		1	2			1	共同	
		小計(9科目)	—	11	0	0					4	5	1	0	1	0	—
	健康回復看護		健康回復看護総論	2前	1			○				2					兼1 オムニバス
		健康回復過程論Ⅰ：急性-回復期・治療過程における看護	2前	1			○				1	2		3	2	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護	2前	1			○				2	1	1	3	1	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	2後	1			○				1	2		3	2	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		成育健康回復ケア概論	2前	1			○				2		1			オムニバス	
		成人老年健康回復ケア概論	2前	1			○				2					オムニバス	
		精神・在宅健康回復ケア概論	2前	1			○				2					オムニバス	
		成育健康回復ケア論Ⅰ	2前	1			○				2		1	1		オムニバス・共同(一部) ※演習	
		成育健康回復ケア論Ⅱ	2後	1				○			2		1	1	2	オムニバス・共同(一部)	
		成人健康回復ケア論	2後	1			○				1	2		4	1	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		老年健康回復ケア論	2後	1			○				1		1	5	1	共同(一部) ※演習	
		精神健康回復ケア論	2後	1			○				1	1		4	2	共同(一部) ※演習	
		在宅健康回復ケア論	2後	1			○				1	1	1	2	3	オムニバス・共同(一部) ※演習	
		健康回復看護総論実習	2前	1					○		7	1	2	2		共同	
		成育健康回復ケア論実習Ⅰ	3前後	3					○		2		1	1	2	共同	
		成育健康回復ケア論実習Ⅱ	3前後	3					○		2		1	1	2	共同	
		成人健康回復ケア論実習	3前後	3					○		1	2		1		共同	
		老年健康回復ケア論実習	3前後	3					○		1		1	1	1	共同	
		精神健康回復ケア論実習	3前後	3					○		1	1		2		共同	
		在宅健康回復ケア論実習	3前後	3					○		1	1		2		共同	
		小計(20科目)	—	32	0	0					7	4	4	8	4	兼1	—
長期療養生活		長期療養生活看護総論	3後	1			○				1					共同(一部)	
		長期療養生活ケア論	4前	1			○				2			3		※演習 共同	
		長期療養生活ケア論実習	4前	2					○		1	1	2	3		共同	
	小計(3科目)	—	4	0	0					1	2	2	5	0	0	—	
統合科目	発展	学部横断科目	健康増進ケア論発展実習	4前	2				○		1	2			1		共同
			看護管理論	4前	1			○				2					オムニバス
			看護統合演習	4後	1				○			8	1	1			オムニバス
			地域包括チームケア論	3後	1			○				1	3	1	3		オムニバス・共同(一部) ※演習
			災害支援論	3後	1			○				2	3	1	2		兼2 オムニバス・共同(一部) ※演習
	小計(5科目)	—	6	0	0					8	6	3	5	1	兼2	—	
看護探究科目	探究	暮らし探索フィールドワーク	1後	1				○			1	4	2	7	2	共同	
		看護研究	2後	1			○				1		2			共同(一部) ※演習	
		卒業研究Ⅰ	4前	1			○				8	6	3			共同	
		卒業研究Ⅱ	4後	1			○				8	6	3			共同	
		看護キャリア発達論	4後	1			○				3					オムニバス・共同(一部) ※演習	
	小計(5科目)	—	5	0	0					8	6	4	7	2	0	—	
合計(83科目)			—	104	0	0				8	6	4	8	4	兼101	—	
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
「共通教育科目」で必修10単位、選択8単位以上、「専門基礎科目」で必修24単位、選択必修8単位以上、「専門科目」で必修79単位以上を修得し、合計129単位以上を修得すること。履修科目の登録上限は48単位(年間)とする。							1学年の学期区分					2期					
							1学期の授業期間					15週					
							1時限の授業時間					90分					

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
看護学科 共通教育科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナール	<p>（概要）この科目では、大学生活を有意義にするための、大学生としての学び、社会人としての対人関係において、必要とされる基本的なスキルについて学習し、それらを実践、活用して、身につけられるようにする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（1 堤由美子/1回） 教職員・学生間の関係づくり。次いで、大学で学ぶとはどのようなことなのか、大学での学びの仕組み（教育課程の編成の仕方・単位制・進級・学位など）を理解し、主体的に学習できるようにする。</p> <p>（18 野中弘美/1回） キャンパス環境の利用の仕方に馴染み、自分らしい大学での居場所づくりができるように、キャンパス内を探索し、活用できるようにする。</p> <p>（4 鳥越郁代/1回） 社会人として必要な対人関係スキル（挨拶・相談・報告など）の重要性を理解し、自身の日常の行動を振り返り、適切な行動ができるようにする。</p> <p>（15 有村優子/1回） グループ学習の意義と方法の理解、そして相手に伝わる伝え方について検討、理解し、積極的な意見交換ができるようにする。</p> <p>（8 丹羽さよ子/1回） 読み手が理解しやすいわかりやすい文章の書き方、プレゼンテーションの仕方について理解し、実践できるようにする。</p> <p>（6 山田巧/2回） 文献検索の仕方について理解し、必要な文献を収集できるようにする。レポート作成の仕方、文献活用の仕方を理解し、実践できるようにする。</p> <p>（10 稲留直子/1回） フィールドワークとその方法を理解し、地域探索のテーマ設定、文献・資料収集、探索計画立案ができるようにする。</p> <p>（10 稲留直子・11 中俣直美・12 武亜希子・14 小玉博子・16 西頭知子・18 野中弘美・19 石川志保・21 梅木由紀・25 平松明子・26 水迫友和/7回）（共同） 我々がその中に埋没し当たり前のように生活している地域に焦点をあて、人、家族、集団と地域との関係について文献収集やフィールドワーク等によって実際に探求し、地域でその人らしく暮らすとはどのようなことなのかについてグループで多角的に検討し、それらの成果を発表し、全体討議することにより、看護の対象を理解するための基盤を築く。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
		データサイエンス・AI入門	<p>（概要）デジタル社会の進展により、暮らしの中には多くのデータが溢れている。本科目では、社会におけるデータ・AI活用について、その留意事項等を含め、基礎的な知識と活用法を学ぶ。社会におけるデータ・AI活用では、社会で起きている変化、活用されているデータ、データ・AI活用技術、現場、最新動向等、その広がりや技術概要について解説する。そして、学生が、実際に表計算ソフト等を使ってサンプルデータまたは実データを分析することにより、データ活用を身近なものとして受け止められるようにする。また留意事項では、データ駆動型社会のリスクについて考え、データ・AIが引き起こす課題について、グループディスカッション等を通して学び、モラルや倫理的な視点について学修する。</p>	
		情報処理	<p>（概要）現代では、「読み書き」ができるようにコンピュータを扱う事ができなくてはならない。いわゆるコンピュータリテラシーとデータリテラシーが必要とされる。本講義では初歩から、コンピュータの利用法を習得して、データを読む、説明する、扱うといった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用ができるようになることを目標とする。具体的には、メールや学内情報システム、インターネットを使って情報の収集・発信ができ、Wordで文書作成ができ、Excelで表計算やグラフ作成ができ、パワーポイントでプレゼンテーションができるようになる。さらに基礎的な情報モラル・情報セキュリティを学び、情報ネットワークを安全に利用できるようになる。このようにして、大学での調査・研究で必要となる情報処理の知識とスキルを修得することを目指す。</p>	
	確率と統計	<p>（概要）社会に現れる数値、即ち観測値の全ては気温を始め給料に至るまで実は不確定なものであり確率変数というものである。この不確定な世界を理解するのが確率論である。株価等の変動も確率論で理解され現実役に立っている。しかし統計学と確率論は全くの別物である。確率論は統計現象（不確定現象）を説明するものであり、これを図示すれば、確率構造→統計現象（データ）となり、統計学は逆に統計現象（データ）を基に現象の持つ確率構造をある確率で推測するものである。例えば天気予報の中の確率予報がそれである。しかし、確率論、統計学をきちんと理解していなければ、この確率予報さえも、なんとなく分かるだけで、はっきりとは理解出来ない。本講義では、それ自体も重要である確率論を統計学に関連付けて講ずる。目標は4つ：①確率の測度論的理解②確率変数の理解③大数の法則の理解④中心極限定理の理解である。</p>		
	キャリアデザイン	人間	<p>（概要）本講義は、社会人として必要となるコミュニケーション力、人間関係構築力を学び、行動化していくための講義である。コミュニケーション能力は持って生まれた才能ではなく、学習や訓練によって向上する。社会人基礎力やコミュニケーションに関する理論を学び、どのようにすれば自らの能力を高めることができるかについての考え方を身につける。必要に応じて個人作業やグループワークを実施し、実践の場も設ける。</p> <p>【クラス担当者】 30 里園 清孝、84 池元 正美</p>	
		キャリア形成のための一般教養Ⅰ	<p>（概要）本講義は、大学生活ひいては社会生活を送る上で必要な一般教養を習得し、社会の現象を総合的に考え、合理的な判断を下せるようにするための講義である。具体的には、日本及び世界の諸地域についての基本的な情報を理解・整理し、説明できるようになることを目指す。同時に、日本及び主要諸外国世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得し、説明できるようになることを目標とする。授業は講義形式で行い、知識の定着を促すために頻繁に小テストを行う。必要に応じて、身につけた知識を活用するためのグループワークの機会を適宜設ける。</p>	

基礎科目	キャリアデザイン	人間	キャリア形成のための一般教養Ⅱ	(概要) 本講義は、大学生活ひいては社会生活を送る上で必要な一般教養を習得し、社会の事象を総合的に考え、合理的な判断を下せるようにするための講義である。具体的には、日本及び世界の諸地域についての基本的な情報・歴史を理解・整理し、論理的に説明できるようになることを目指す。同時に、日本及び主要諸外国世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得し、丁寧な説明ができるようになることを目標とする。授業は講義形式で行い、知識の定着を促すために頻繁に小テストを行う。必要に応じ、身につけた知識を活用するためのグループワークの機会を適宜設ける。	
			キャリア形成のための一般教養Ⅲ	(概要) 本講義は、大卒の社会人に求められる一般教養を習得し、社会の事象を総合的に考え、合理的な判断を下せるようにするための講義である。具体的には、日本及び世界の諸地域についての基本的な情報・歴史を理解・整理し、説明できるようになることを目指す。同時に、日本及び主要諸外国世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得し、説明できるようになることを目標とする。授業は講義形式で行い、知識の定着を促すために頻繁に小テストを行う。必要に応じ、身につけた知識を活用するためのグループワークの機会を適宜設ける。	
			キャリア形成のための一般教養Ⅳ	(概要) 本講義は、大卒の社会人に求められる一般教養を習得し、社会の事象を総合的に考え、合理的な判断を下せるようにするための講義である。具体的には、日本及び世界の諸地域についての基本的な情報・歴史を理解・整理し、論理的な説明ができるようになることを目指す。同時に、日本及び主要諸外国世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得し、説得力のある説明ができるようになることを目標とする。授業は講義形式で行い、知識の定着を促すために頻繁に小テストを行う。必要に応じ、身につけた知識を活用するためのグループワークの機会を適宜設ける。	
			論理的思考と数的処理	(概要) 論理的思考を身につけ、数的処理に習熟することを目的に、企業内で求められる業務処理、判断能力を測定するSPI2の問題例を取り上げ、解説する。本講義では、①未知数を用いた式をたてる力、②場合の数を正しく数える力、確率を求める力、③正しい論証、推理ができる力、④グラフ、図表を読み取る力、⑤正確に素早く問題を解く力を身につけることを到達目標とする。	
看護学科 共通教育科目	キャリアデザイン	暮らし	キャリア形成のための文章力育成	(概要) 文章を書く練習を通し、実践的な文章力を修得するための講義である。併せて、文章を書くことに必要な知識・情報・文章作法も解説する。具体的には、与えられた課題を理解する読解力、適切な形式や用語で一定の長さの小論文を書ける文章力の修得を目指す。そのために、さまざまな社会問題について、基本的な知識を踏まえ、自身の視点と織り交ぜながら問題点を指摘できる能力、自身の論点を、客観的な根拠に基づき述べられる論理的展開力の育成を行う。	
			日本文学	(概要) 共通教育の授業として、日本文学の入門的な授業を行う。本講義では、文学的な視点と文学研究という専門領域の方法の基本を学び、その可能性を理解することに主眼を置く。作品を具体的に読解する形態で授業を行う。学生のアクチュアルな関心に関わりを持つと同時に、日本語として質の高い文章で書かれた作品を対象とすることで、学生の日本語力=思考力を喚起し向上させることを狙いとする。 【クラス担当者】 42 村瀬 士朗、61 武藤 那賀子	
			外国文学	(概要) 捉えがたい現実を形に留めようとする営為が文学であるとして、その営為が国や文化を問わず、長い人間の歴史のなかで生き続けている。文学という表現文化は時代や国や民族によって異なる面を持ちながらも、普遍的に人の心を捉えて離さない「何か」を備えている。時間的にも地理的にも遠く隔たった時代の表現文化に深い感銘を受け、その世界観や人生観から新たな勇気を得る、というように、フィクション(虚構物語)が現実の人生に与えてくれる恩恵は少なくない。とりわけ、悲劇がわれわれの心に刻む人生の過酷さへの共感、喜劇が呼び覚ます笑いや幸福感はわたしたちの毎日を潤してくれる。実在しない登場人物たちの織り成す偽物の世界が、なぜそのような豊かさをもたらすのか。 本講義では映像教材も適時取り入れながら、16・17世紀イギリス演劇、特にシェイクスピアの喜劇作品を中心にして、常に現代人としての私たちの文学体験、演劇体験と比較しながら学生と一緒に考える。	
			音楽文化論	(概要) 「音楽」は、感覚的なものが偶発的にもたらした産物として捉えられがちだが、実際には(とくに西洋芸術音楽においては)確固とした理論に基づき、綿密に組み立てられている。加えてそこでは純粋に音楽的な要素に歴史、政治、文学、美術、数学、民俗学、心理学等、さまざまな分野が副次的に絡み合うことにより、最終的に学際的な創造物を作り上げている。本科目では、オムニバス形式で音楽を多様な視点から観察・考察することにより、音楽に対する学際的な視野を身につけていく。 (オムニバス方式/全15回) (54 伊藤 綾/6回) 西洋芸術音楽は決まりごと(=音楽理論)に従って書かれており、それをどのように駆使し、どのように逸脱するのか、さらにはそこに音楽以外の分野をどのように織り込んでいくのが作曲家の腕の見せ所となる。伊藤担当回では、受講生が一度は耳にしたことがあると思われる名曲を具体例として、西洋芸術音楽の構造と学際性に関する理解を深める。また、演奏家の視点からもこのテーマにアプローチすることにより、芸術音楽の担う文化的な役割を考察する。 (46 久保 禎/5回) 音楽の重要な構成要素である「和声(ハーモニー)」と「対位法」の特徴や魅力について、クラシック音楽はもとよりポップスやジャズ、伝統音楽やわらべ歌なども参考にしながら概観する。また、音楽に内在する「民族性や地域性」について、様々な作品からその特徴を見出し、音楽と文化の関係を考察する。併せて、音源や映像、実演等を交えながら、音楽と文化についてさらに理解を深める。 (36 岡村 重信/4回) ピアノ音楽は全ての楽器の模倣をすることができ、大きなオーケストラをひとり演奏することもできる。他方、他のいかなる楽器よりシンプルな音楽を演奏することもできる。ピアノ音楽を聴くとき何に注目すべきかを全員で鑑賞しながら考えてみたい。またピアニストがどのように成長していくのかを説明して、その人間性について考える。	オムニバス方式
人間教養科目	人文科学	人間	日本史	(概要) 日本の歴史や文化を考える上で重要な文化遺産の基本的な知識を習得する。まず、どのような文化遺産があるのかその概要を確認し、近年、様々な分野で話題となっている世界遺産について、さらに全国的に多数存在している文化遺産である城や城下町の知識を習得する。具体的な事例として、鹿児島の世界遺産や城下町等を取り上げる。日本を代表する文化遺産である城や城下町を通して、日本の歴史的・文化的な特徴が理解できるようにする。 【クラス担当者】 53 太田 秀春、96 栗林 文夫	

看護学科 共通教育科目	人間 人文科学	西洋史	(概要) モノ・カネ・ヒト・情報の国境を越えた移動が激しくなった今日のグローバル社会では、「国家」や「国民」とは何かが問われている。授業前半では、近現代における「国民国家」の成り立ちやその歩みについて、「国民統合」がもつ社会・文化的側面について解説する。授業後半では、博覧会を素材にして、近代イギリス社会を多面的にとらえる。つまり、授業前半では、グローバル化で問われている「国家」「国民」の歴史を、授業後半では、グローバル化の萌芽を博覧会を切り口にした近代イギリス社会から読み解く。	
		東洋史	(概要) 私たちは一口に中国というが、そこには様々な文化・地域が含まれている。そのことは、中国語といっても、それは北京を中心とする北京方言にすぎず、例えば広東語などそれ以外の地域には様々なバリエーションのあることが示されている。現在の中国はそのような地域が分裂・統合されるなかで生まれ、さらに、その中国における歴史展開は日本・朝鮮半島を含む東アジア世界のそれと密接に結びついてきた。本講義では、中国古代の歴史を通じて、その統合がどのようにして達成されたのか、また、古代中国が世界帝国へとなりえたのは何故か、などの点について中国社会の特質を踏まえながら講義していく。	
		東西文化の交流	(概要) 日本と東洋との交渉の歴史、さらには日本と西洋との交渉・外交の流れを把握することによって、世界史のなかの日本の位置づけに加え、日本・東洋・世界との文化的共通点と相違点などを認識し、日本文化の特筆や変容を学ぶ。歴史・文化を学ぶ場合にも重視すべきことは、歴史事象を単発的に把握するだけでなく、連続する歴史過程のなかで位置づける能力を身につけることである。歴史・文化を見通す視点を持つ多面的思考を養成する。	
		哲学	(概要) 本講義では、「哲学とは何か」について考察することから始め、近代の代表的な哲学者たちの思想をたどり、彼らが何を問題にしてきたのかを学ぶ。この時代に登場してきた発想は、現代に生きる私たちの考え方や諸制度の土台となっているが、こうした「当たり前」に属する事柄を意識化し問い直すことで、自身の考え方や生き方を問い直す手がかりを手に入れられることを目指す。具体的に扱う内容は、大陸合理論、合理性と信仰、イギリス経験論、社会契約論、ドイツ観念論などである。	
		倫理学	(概要) 哲学における倫理学の位置付け、倫理学が取り扱う問題の性質などを説明することによって、倫理学とはおおよそどのような学問なのかを理解する。そのうえで、古代ギリシャの哲学者たちの倫理思想、近代の哲学者たちの議論を説明する。なお説明の際は、彼らの主張が「人間という存在についての彼らの理解」に基づいていることに留意する。	
		心理学	(概要) 心理学は心と行動に関する学問である。本講義では、心理学の成り立ちと感覚・知覚、学習、記憶などの分野でこれまでの研究により明らかになった知見を概観しながら、人間の発達、行動について理論的に学ぶことを目的とする。そして、これまでの自己や他者の発達、行動、心の変化を見直し、心理学の知見を踏まえて、理論的に説明できることを目的とする。 【クラス担当者】 66 永富 大輔、67 原口 恵、111 岩重 正一	
	暮らし 社会科学	法学	(概要) 法律の学習というと、法律の条文を覚えるという風に考えがちだが、法律は具体的な事件を解決するための道具ということができる。法律を学ぶことで、逆に世の中のことや自らの専門領域がより理解できるようになる。本講義は、法律を初めて学ぶ人向けに法律の基礎を重視した講義を行う。法律の基礎がわかれば、身近で起こった新しい法律問題にも自ら考え、理解できるようになる。法律の基礎には、法律用語の意味や考え方、具体的事例などいろいろあるが、特に重要なことは、法律の全体像を体系的に理解することである。本講義では、①法律の基礎知識を得る、②人権感覚が取得できる、③法的思考能力が身につく、④規範意識が高まる、⑤法的な文章が書けるようになることを到達目標とする。	
		日本国憲法	(概要) 「日本国憲法の現実」をテーマとし、①統治機構に関する諸制度と現状、②基本的人権の内容と現状、③平和主義の意義と現状の3つを理解することを目標とする。「日本国憲法の成り立ち」、「精神的自由権」、「社会権」、「平和主義と憲法9条」、「象徴天皇制、選挙制度」、「国会」、「内閣」、「裁判所」、「地方自治」、等の個別テーマを立て、具体事例を交え、各々1～3回の授業で構成していく。	
		政治学	(概要) 政治学の基本的な考え方や方法を紹介しながら、現代の複雑な政治現象を読み解く。講義では、各回で現代政治のアクチュアルな問題をひとつ取り上げ(たとえば、税と政治、ジェンダーと政治、核問題と政治など)、学ぶポイントを提示したうえで、政治現象の政治的背景や政治的意味合いを解説する。受講生は解説を通して、自分自身とどのようにかわりがあるのか、また、今後どのようにしていったらよいかを考え、政治への関心を身につけるとともに思考力・論理力を身につける。	
		経済学	(概要) 人間の生活にはいろいろな側面があるが、その一つに、生活に必要なものの生産と流通、消費がある。人間生活のこの側面が経済というものであり、この経済という側面から人間社会を捉えてみようとするものが経済学である。本講義では、こういう視点から、生れ落ちて200年あまりとなる「近代社会」の経済学について、基本的な概念や論点を学ぶ。具体的に扱う内容は、経済学の父とよばれるアダム・スミスから話を始め、「近代社会」の経済学が誕生した事情について歴史的に論じた後、経済学が提起してきた基本的な概念や論点の紹介を行う。 【クラス担当者】 34 KAMCHAI LAISMIT、38 加藤 一弘、59 池田 亮一	
		社会学	(概要) 社会学は「社会」についての学問であるが、不思議なことに肝心の「社会」という概念について統一的な定義は持っていない。むしろ「社会」とは何かという問いに対して一つの答えを出すことよりも、その問いをめぐってさまざまな考えを重ねたり、対置したりすることが社会学という学問の営みである。本講義では、デュルケムやウェーバー、フーコーなどさまざまな社会学者の学説を紹介し、「社会」なるものについて考えてくことで、社会学という学問についての理解を深めることを目指す。	
		地理学	(概要) 現在の日本では様々な地域再生が課題となっている。自然環境から産業立地、居住空間まで幅広く扱う地理学の視点で各地の再生に必要な課題や現状について考える。具体的に扱う内容は、降水と森林、森の力といった自然環境、林業の再生といった産業立地、空き家の再生や限界集落といった居住空間等である。講義を通して、自然と人間の相互関係を理解すること、産業と立地の関係を表現すること、都市と農村のあり方を協働して提言することを目標とする。	

看護学科 共通教育科目	人間教養科目	自然科学	暮らし	数学 I	(概要) あらゆる分野で必要となる統計学を学ぶ際の基礎となるのが微分積分であるが、物理等は言うに及ばず、その他経済学でも必要となるのが微分積分である。数学の中でも汎用性が高く数学の中での中心的存在である。無限と言う不可思議なものを扱うので哲学的にも、それ自体でも誠に興味深い分野である。本講義では、無限を史実に即して導入し微分積分の概念に達し、1変数関数の微分積分を展開する。目標は次の4つである。①無限小、無限大の概念の理解②合成関数の微分③1変数関数の極値問題の解法④1変数関数のマクローリン・テイラー展開と近似への応用		
			暮らし	数学 II	(概要) 本講義では、「数学 I」で学んだ知識と概念を基に多変数関数の微分積分、特に2変数関数の微分積分を扱う。又、微分積分学建設に寄与した数学者、当時の社会情勢にも触れる。目標は次の3つである。①合成関数の微分の一般化であるチェインルール②多変数関数の極値問題の解法③多変数関数のマクローリン・テイラー展開		
			いのち	生命科学	(概要) 生命科学の基礎知識を養うと共に、生物学的思考力を身につけるよう講義を進める。長い進化の過程を経て、生物の体は最適化したプログラムを身につけ、生物の営みは合目的かつ秩序だったものとなっている。この秩序が破綻するとがんなどの病気を発症する。また、これらのプログラムを人為的に改変し、ヒトにとって有用な作物を創りだしたり、病気で失われた組織を人為的に再生する技術が利用されている。本講義では、生命の秩序だった営みや、身近な病気や、バイオテクノロジーの技術革新を理解し、我々ヒトが健康で豊かな暮らしをおくる知恵を身につけることを目標とする。		
			いのち	環境科学	(概要) 本講義は、ヒトを取り巻く環境を化学的な視点から理解できるようにすることを目的とする。身の回りの物質がどのように成り立っているか解説を進め、日常で使用している洗剤などの化学物質を例に、その働きを分子レベルで解説する。次に人工的に作られた化学物質が人類にもたらした利益、また引き起こした問題について考える。特に過去日本で起こった公害(特に水俣病)について、当時の社会情勢等を踏まえつつ、その発生原因や現在の状況などについて解説する。また地球規模での物質循環、そして現在問題となっている化学物質により、現在、そして今後起こるであろう影響、その解決法などについての最先端の研究を紹介する。 【クラス担当者】 106 河原 康一、117 児玉谷 仁		
	暮らし	地域志向	人間	暮らし	地域創生 I	(概要) 地域の各界で活躍している方々をゲスト講師として招き、実体験を聞いたり実演を見ることで、地域創生について考え、さらに議論する授業である。受講生は、講師の経験や知識を一方的に受け入れるだけでなく、疑問や考えたこと、感じたことを発表し、講師や、授業の担当者、受講生らと議論を展開していく。そのことにより、受講生がやる気を起こしたり、やりたいことの手掛かりをつかんだり、地域における自らの関わり方を考えたり、さらに学びの交流の輪を広げていくことが本講義の主な目的である。	
				暮らし	地域創生 II	(概要) 「地域創生 I」に引き続き、地域の各界で活躍している方々をゲスト講師として招き、実体験を聞いたり実演を見ることで、地域創生について考え、さらに議論する授業である。受講生は、講師の経験や知識を一方的に受け入れるだけでなく、疑問や考えたこと、感じたことを発表し、講師や、授業の担当者、受講生らと議論を展開していく。講義を通じて、①県内の地域の現状を知り鹿児島これからを考える、②地域に関わりながら、地域の方向性に影響を与えている方々の活動内容や思いを知る、③自分自身の地域への関わり方の可能性を考え、実際に行動に移すことを到達目標とする。	
				暮らし	Japanology	(概要) 現代日本の文化と社会のさまざまな側面について、5名の講師がそれぞれの専門的な知見を活かして英語で講義する。適宜、映像資料の視聴、グループワーク、ワークショップなどを通して理解の促進を図る。 (オムニバス方式/全15回) (50 小林 潤司/3回) テーマ：日本化されたシェイクスピア 本講義では、明治後期から現在までシェイクスピアが日本でどのように受容されたかを探る。ひとつの国民が外国文化の受容を通して自国の文化を発展させていくためのさまざまな条件について学ぶ (37 DAVID MCMURRAY/3回) テーマ：俳句 明治後期に起こった俳句革新運動から現代の写真俳句に至るまでの俳句の広がりについて考察する。英語で俳句、写真俳句の実作にも取り組んでもらい、秋田、松山、東京で毎年開催される各種俳句コンテストに応募してもらおう。 (52 TOLAND SEAN HENRY/3回) テーマ：日本のイノベーション 1970年代初めから現在までの日本のイノベーションに焦点を当てる。1～2回目は日本の技術革新(ビデオゲームなど)と文化輸出(カラオケ、アニメなど)が世界に及ぼした影響について、3回目は21世紀のグローバル化した世界で、よりクリエイティブで柔軟な活躍をしている日本の企業や企業家たちについて学ぶ。 (51 大西 智和/3回) テーマ：先史古代の日本列島 本講義では、日本列島の旧石器時代から古墳時代までの歴史を概観する。「モノ」を通じて、どのような歴史が復元できるのかを理解してもらいたい。画像のスライド多用し、わかりやすい授業を心がけたい。 (45 山下 孝子/3回) テーマ：マンガ 日本の漫画をテーマとし、それがいかなるユニークな成熟を遂げたのかについて、その段階的な歴史を辿り、少年漫画から少女漫画へ、そして年齢や性別、ジャンル、メディアを超えた主要な文化へと発展した変遷を学ぶ。とりわけ手塚治虫、萩尾望都については作品解説も行う。	オムニバス方式
	暮らし	暮らし	地域から世界へ	(概要) 近年、高速交通網の整備や国際的物流メカニズムの発達、インターネットやSNSなど情報通信ネットワークの急速な拡大などにより人間の活動は時間的にも距離的にもダイナミックさを増している。しかし、国際化が進めば進むほど、地域はその特徴を薄め、独自の魅力を持ち続けることが難しくなる。このような厳しい状況のもとで、地域が地域で在り続け、魅力を発信し続けるためには何が必要なのかを考える。鹿児島をフィールドに世界にその魅力を発信し続けている方や、鹿児島に特別な思いを持って世界で活躍する方、あるいは外から鹿児島島の魅力を理解し、世界中に情報発信するノウハウを持つ方をゲスト講師として招き、鹿児島から日本のみならず世界へ知(地)を送り出すヒントを探ることを目標とする。			

看護学科共通教育科目	人間教育科目	地域志向	暮らし	かごしま教養プログラム	(概要) テーマは、鹿児島県の個性化・活性化を考える能力の養成プログラムである。鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた鹿児島を素材にした授業を持ち寄り「グローバル」(グローバルな視点から地域や個人の発展を探ること)を考えるリベラルアーツ教育を行う。2泊3日の夏季集中授業で、午前中は講義、午後グループ学習をする。さらに、総合討論・ディベート等を取り入れ、学生間で話し合い、切磋琢磨しながら学修する。 (33 森 孝晴・35 西原 誠司)	共同
				かごしまフィールドスクール	(概要) かごしま教養プログラムを受講した学生(約300名)を対象に、10名程度のグループを編成して、鹿児島県の現場を体験・体感させるボランティアなフィールド体験学習を行う。地場産業、農業、商業、観光、環境、暮らしなどにかかわる地域・施設などを学習の場とし、その地域に内在する特徴や住民の暮らし、今後の方向性への住民意識などを実践的に学習し、今後、地域を活性化していくための方策について考察し、グローバルな視点で「地域、人、環境、産業」などを発展させる方策について考える。この活動により、鹿児島県の本質と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島県の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけることを目指す。 (33 森 孝晴・35 西原 誠司)	共同
				ボランティア活動	(概要) ボランティア活動を行う上で基礎となるボランティアの歴史や基本的概念について学習する。ボランティア活動への参加を通じて、地域社会や社会貢献活動に自発的・積極的に参画し体験することにより、協力・協調などの社会性を養い社会の問題への関心・意欲を高め、持続可能な社会に向けて環境保護・福祉などの知見を身につける。また、活動を通して社会に貢献することの意味を考え、将来において継続した活動をしていくことを促進する。	
			人間	海外インターンシップ	(概要) 海外でのインターンシップによる就業力の育成をテーマに、夏休み期間にインターンシップ研修を受ける。インターンシップを実施する国・地域は、中国(大連)、台湾(台北・高雄)、香港又は米国を予定している。前期の授業では、ビジネスマナー、当該外国語に関する訓練や現地の経済・文化・価値観といったことを学ぶ。帰国後は報告書を提出、また報告会で発表する。 【クラス担当者】 37 DAVID MCMURRAY、41 戦 慶勝、48 表 正幸、65 大野 陽子	講義:30時間 実習:90時間
				教養特講Ⅰ	(概要) 本講義は、大学生生活ひいては社会生活を送る上で必要な一般教養を習得し、社会の事象を総合的に考え、合理的な判断を下せるようにするための講義である。具体的には、日本及び世界の諸地域についての基本的な情報を理解・整理し、説明できるようにすることを目指す。同時に、日本及び主要諸外国世界の政治・経済活動についての基礎的な知識を習得し、説明できるようにすることを目指す。授業は講義形式で行い、知識の定着を促すために頻繁に小テストを行う。必要に応じ、身につけた知識を活用するためのグループワークの機会を適宜設ける。	
				教養特講Ⅱ	(概要) ものがたりプロジェクト(Mプロ)は、地域の読書活動の推進を目的に、若者に人気の作家を招き、対談会や講演会を企画、広報、運営までのすべてを学生自身で行う2007年から続いている活動である。書き手と読み手の架け橋となるこの体験は、将来、鹿児島県地域文化を担う人材として活躍するベースとなる。特に企画力(イベント企画の実践的なスキルや主体性を身につける)や実践力を培うことを目指します。読書活動や地域の活性化に関心の高い学生の受講を望む。	
	暮らし	教養特講Ⅲ	(概要) 本講義のテーマは、ホームレス支援から現代社会を考えることである。日本における路上生活者は、2003年の全国調査では25、296名を数えていた。鹿児島県内では2003年に80名を数えたホームレスは、平成28年には16名にまで減少している。ホームレス支援の輪が広がり、その支援体制がしっかりしてきたことが原因の一つである。こうした支援の輪の中核には、ボランティア活動が含まれ、継続した支援がなければ、ふたたび、ホームレスの増加を招くことも考えられる社会的に意味の大きな活動である。現在、「かごしまホームレス生活者支えあう会」では、毎週火・木・日の午後5時から中央公園(鹿児島県教育会館隣)での炊きだしと相談を中心とした活動を行っており、生活保護の申請支援、年金や借金問題に関する相談、物資(寝袋、使い捨てカイロ、下着、靴、衣類等)の提供を行っている。また月に一度「夜回り」等を実施している。社会福祉士会も月2回の夜回りを実施している。これらの活動のうち、「炊き出し」や「夜回り」のボランティア活動に参加する。Webキャリアポートフォリオを使い、学外に出かける場合の活動内容の記入を行ったり、ボランティア体験前の事前評価と体験後の事後評価を行い、教育効果を測定する。加えて報告会等を通して活動内容を発表する。	講義:30時間 実習:45時間		
		英語 コア	人間	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	(概要) 高校までに学習した基本的な語彙や文法を丁寧に復習しながら、英語による基礎的なコミュニケーション能力の養成を目指す。具体的には、自分自身のことや家族のことを簡単な英語で話したり聴いたりできること、日常生活で訪れることが多い場所で簡単なやりとりが英語でできることを目指して、スピーキングとリスニングを中心に演習を行う。 【クラス担当者】 37 DAVID MCMURRAY、45 山下孝子、48 表正幸、52 TOLAND SEAN HENRY、86 GORHAM PATRICK JAMES、123 POLLARD PERCIVAL CONSTANTINE	
				英語オーラル・コミュニケーションⅡ	(概要) 英語による基本的なコミュニケーション能力の養成を目指す。日常生活の様々な場面を想定して、スピーキング・リスニングを中心に、必要な情報を「話す」「聞く」「読む」「書く」練習を行う。同時にTOEICなど各種検定試験等にも対応できる能力の養成を目指す。 【クラス担当者】 37 DAVID MCMURRAY、45 山下孝子、48 表正幸、52 TOLAND SEAN HENRY、86 GORHAM PATRICK JAMES、123 POLLARD PERCIVAL CONSTANTINE	
	英語海外研修			(概要) 英国の大学もしくは米国の大学が実施する夏期講習に参加し、英語によるコミュニケーションの技能の習得に取り組むとともに英語文化・各国の文化について幅広く学ぶ。実施国は、英国と米国の各年で行う。夏期講習では、ESL(第二言語としての英語)教育の専門家による授業(1日3時間)を3週間受講するほか、教室外プログラムに参加し、英語によるコミュニケーション能力を高めていく。		
	英語リーディング			(概要) 平易な英文で書かれた、イギリス文化を浮き彫りにした内容を読み、イギリスに対する理解を深めるとともに、基本的な文法事項を復習する。5月中旬から、受講生各自が選んだ英語で書かれた物語を基本的な文法事項等に注意しながら読み進める。学生の習熟度によって、英文で書かれた小説を読み、英文で味わう楽しみを分かち合う。 【クラス担当者】 45 山下 孝子、50 小林 潤司、75 坂本 育生、104 大和 多加子		
	コミュニケーションスキルズ科目					



看護学科共通教育科目	コミュニケーションスキルズ科目	英語	コア	英語ライティング	(概要) 日本人の英語学習者によく見られる英語表現の間違いをテーマに英語と日本語の違いを学ぶ。また、語彙力、表現力をつけて、英作文力を養う。学生の習熟度に応じて、英語ライティング能力の育成のために、さまざまなタイプの英文の書き方を段階的に学び、パターンに沿って、3~4パラグラフで構成されるエッセイ・レベルの英文を書くことのできるライティング・スキルを身につける。 【クラス担当者】 45 山下 孝子、75 坂本 育生、104 大和 多加子	
				英文読解の技法	(概要) 英文で書かれた物語を読んで楽しみ、かつその物語を支えている英語文化に触れることを目的とする。講読テキストとして『不思議の国のアリス』の英語原文を読み進めながら、たとえばシェイクスピアにも見られるように、広くイギリス文学に通底するノンセンスの効果について考察していく。講義は学生が担当箇所を決めて訳読していく形で進める。学生が担当した和訳は授業時に発表し、その場でフィードバックをしていく。また、その和訳を授業終了後に提出してもらい、次回添削して返却する。	
				TOEIC・TOEFL対策	(概要) TOEICとTOEFLについて基礎的な知識の習得とこれらのテストに関する問題を解き、英語力の向上を目指す。またTOEIC、TOEFLの効果的な解法、時間配分などのテスト受験に必要な技術も順次伝えていく。本講義では、①英語の基本的文法をふまえて英語構文を理解する、②英語を正しく聞き取り、場面や文脈に合った会話ができる、③TOEIC500点以上の英語に必要な語彙を蓄える、④英語における適切な語の配置ができる、⑤ある程度まとまった量の英文を正しく読んで理解できることを到達目標とする。	
				コミュニケーションのための英文法	(概要) 英語を書く時・話す時、知っている単語を思いっぴのままに並べても、効果的なコミュニケーションを実現することはできない。本講義では、大学入学までに身につけるべき英文法の学習事項を、コミュニケーションに活かせる実践的な知識として身につけ直すことを目的とする。講義はあらかじめ教科書のExercisesに取り組み疑問点を整理して授業に臨むようにする。講義内では、その疑問点を解決し知識の定着が図れるようにしていく。	
				Global Economy and Business	(概要) 海外でのインターンシップで応用するだけでなく、キャリア形成にあたって、各人がごく常識的かつ日常的な経済及びビジネスの知識を英語で身につけ、それらに関する思考力を深めることを講義の主眼とする。 (オムニバス方式/全15回) (48 表 正幸/3回) 現在、世界で使われている種々の英語の違いの理解に始まり、ツーリズムとは何か、殊に世界遺産についての知識を深める。 (38 加藤 一弘/2回) 日本の産業革命を代表する八幡製鉄所と三池炭鉱について、当時の世界情勢と関連させながら学ぶ。 (63 西 宏樹、68 平出 宜勝/2回) グローバルな視点からグッズ・マーケティングやサービス・マーケティングについて学ぶ。 (43 康上 賢淑/2回) ファッションブランドの誕生から現在の日本ファッションビジネスについて学ぶ。 (57 福田 正彦/2回) 経済共同体 (EUとASEAN)、外国為替の変動、新興国の経済変動がビジネスに与える影響について学ぶ。 (37 DAVID MCMURRAY、65 大野 陽子/2回) 人の移動の理解がグローバル経済とビジネスの学習に不可欠であることから、人と労働者の移動に関する知見について学ぶ。 (44 JEFFREY SCOTT IRISH/2回) 答えを持つより、問いを豊富に持つこと。そして、経済学研究者になった気分の世界について学ぶ。	オムニバス方式
			関連	基礎中国語 I	(概要) 本講義は初めて中国語を学ぶ学生のための入門コースである。中国語で最も難しいとされる発音と高低アクセント (声調) をマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。また、自己紹介などの簡単な会話能力を身につけるよう学習を進める。	
				基礎中国語 II	(概要) 「基礎中国語 I」に引き続き、声調の安定化、会話能力・表現力の向上を目指す。同時に、道のたずね方、買い物物の仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。講義では、ビデオ・オーディオ教材などを多用し、学習意欲を高めていく。	
				基礎フランス語 I	(概要) 日常生活でよく使われる表現を利用しながら、フランス語の基礎的な理解、初歩的な運用能力の修得を目指す。本講義に真剣に取り組むことで、「初歩的な日常フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる」(フランス語検定5級) ようになれると考える。講義は教科書に則りながら、音読、文法説明、会話練習、練習問題、課題を適宜組み合わせ講義を展開する。	
				基礎フランス語 II	(概要) 「基礎フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な理解、初歩的な運用能力の修得を目指す。講義は、音読、文法説明、会話演習、練習問題、課題を適宜組み合わせ展開する。	
				基礎ドイツ語 I	(概要) 国際社会で活躍するうえで必要な知識・教養を身につけるため、ドイツ語の基礎とドイツ語圏の文化を学ぶことを目的とする。ドイツ語は教科書を利用して、初歩的な文法事項や会話を学ぶ。ドイツ語圏の文化については、スライド、CD、DVDなどを利用して学ぶ。また、受講者自らがドイツ語圏の文化について調査・発表をする機会を設け、能動的な学修態度を身につけることを目指す。	
			第二外国語	基礎ドイツ語 II	(概要) 「基礎ドイツ語 I」に引き続き、国際社会で活躍する上で必要な知識・技術を身につけるため、ドイツ語の基礎とドイツ語圏の文化を学ぶことを目的とする。講義を通して①基礎的なドイツ語を読み、書き、話すことができること、②ドイツ語圏の文化的特色について、例をあげて説明できること、③能動的に学修できることを到達目標とする。	
				基礎韓国語 I	(概要) 韓国語の基礎を習得し、韓国に対する理解を深めることを目的とする。韓国語をはじめ学ぶ学生を対象に、ハングル (韓国語を表記する文字) の発音や読み書きの練習、基本文法の練習を集中的に行う。最終的には、ハンガルの読み書きができ、基本的な挨拶や簡単な自己紹介ができることを目指す。 【クラス担当者】 72 新村 恵子、101 鄭 美淑	

看護学科 共通教育科目	第二外国語	韓国語	人間	基礎韓国語Ⅱ	<p>【概要】「基礎韓国語Ⅰ」に引き続き、韓国語学習の基礎を固める。日常よく使う基本的な疑問文、否定文、指示語、家族関係名称、存在詞、位置・方位の表現練習などを学ぶ。簡単な日常会話や買い物ができるようになることを目標とする。</p> <p>【クラス担当者】 72 新村 恵子、101 鄭 美淑</p>	
				韓国語海外研修	<p>【概要】韓国現地での語学研修と社会・文化体験することを目的とする。本講義は、8月初旬から3週間、協定校である培材大学（大田広域市）で韓国語を学ぶとともに、韓国の学生との交流や、大田広域市内や近郊の探訪、映画・音楽鑑賞を行う。また培材大学での所定の授業終了後、ソウルで勉強した韓国語を実際に使ったり、ソウル市内の文化施設や若者文化に触れ、多角的な韓国語・韓国理解ができるようにする。</p>	
看護学科 共通教育科目	講義		健康	日常生活に生かすスポーツ科学	<p>【概要】運動不足を誘因とする生活習慣病の低年齢化傾向を捉えて、あるいは体格は大きくなったが、体力は下がっているといったスポーツテストの結果を捉えて、子ども時代の運動の必要性が強調されている。また、高齢者が健康で活動的な生活を継続する上での身体活動・運動の有用性も指摘されている。本講義では、スポーツ科学の領域で得られた知見をベースに、運動・体力・健康について考え、生涯にわたって安全に楽しくスポーツと関わるためのヒントを見つける。具体的には、①身体活動と健康との関連について理解する、②筋力や持久力に及ぼすトレーニングの効果について理解する、③からだの発達に与える身体活動の影響について理解することを到達目標とする。</p>	
				現代社会とスポーツ	<p>【概要】「するスポーツ・みるスポーツ・ささえるスポーツ」と人々の生活のなかには「スポーツ」が深く入り込んでいる。スポーツが社会に与える影響や社会におけるスポーツの価値・意義を理解することで、現代社会においてスポーツがどのように位置づけられているかを学ぶ。また、スポーツを多様な角度から考察していくことをねらいとする。</p>	
	実習	健康		スポーツ実習Ⅰ (屋内集団球技)	<p>【概要】本講義は、屋内集団球技に関する実技であり、曜日時限によって種目が異なる（バレーボールもしくはバスケットボール）。バレーボールやバスケットボールの特性を理解し、ゲームを楽しむために必要な基本的な技術やルール及び審判法を学び、生涯スポーツへと展開できる能力を身につけることをねらいとする。コミュニケーション能力を高めることができるように、チームメイトやパートナーと協力して積極的に行動することを心がける。</p> <p>【クラス担当者】 62 吉本 隆哉、69 濱中 良</p>	
				スポーツ実習Ⅱ (屋内個人球技)	<p>【概要】本講義は、屋内個人球技に関する実技であり、曜日時限によって種目が異なる（卓球もしくはバドミントン）。生涯にわたって生活の中にスポーツを取り入れることの意義や重要性を理解するとともに、卓球やバドミントンの特性や基本的ルールを理解し、興味を深め、楽しみながらスポーツを継続していきける態度・習慣を確立できるようにすることをねらいとする。さらに、コミュニケーション能力を高めることができるように、基礎及び応用練習やゲーム等をグループのメンバーやパートナーと協力して実施する。</p> <p>【クラス担当者】 62 吉本 隆哉、69 濱中 良、90 福満 博隆</p>	
				スポーツ実習Ⅲ (個人種目)	<p>【概要】本講義は、個人種目でありニュースポーツと健康コースがある。ニュースポーツは、幅広い年齢層の人々が自分に合った手軽なスポーツを楽しむ目的で行われている複数種目を取り上げ、生涯にわたって生活の中にスポーツを取り入れることの意義や重要性を理解するとともに、それぞれのスポーツが発生した歴史的背景や道具やルールの特性を理解し、興味を深め、楽しみながらスポーツを続けていきける態度・習慣を確立できるようにすることをねらいとしている。健康コースは、身体的または精神的な事由により、他のスポーツ実習実施種目の履修が困難な学生を主な対象とする。実施内容については、ニュースポーツ種目を中心に、受講学生に対応して決定する。また、器具やVTRを活用した演習形式の授業も適宜取り入れる。</p> <p>【クラス担当者】 69 濱中 良、90 福満 博隆</p>	
				スポーツ実習Ⅳ (屋外個人球技)	<p>【概要】本講義は、屋外個人球技（テニス）に関する実技である。生活の中にスポーツを取り入れることは人生を豊かにする可能性が高い。テニスは基本的技術を修得することで生涯にわたって行うことができるスポーツであるが、間違った行い方をすると障害を伴うこともある。そのため、テニスにおける技術の特性及び練習方法を理解するとともに、ルール・マナーの習得とゲーム（シングルス・ダブルス）及び試合運営の方法等を学ぶ。そして、競技スポーツとしてのテニスと健康づくりとしてのテニスの行い方について学ぶ。</p>	
				スポーツ実習Ⅴ (屋外集団球技)	<p>【概要】本講義は、屋外集団球技に関する実技であり、曜日時限によって種目が異なる（ソフトボールもしくはサッカー）。本講義を通して、生涯にわたって生活の中にスポーツを取り入れることの意義や重要性を理解するとともに、ソフトボールやサッカーの特性や基本的ルールを理解し、興味を深め、楽しみながらスポーツを継続していきける態度・習慣を確立できるようにすることをねらいとする。さらに、コミュニケーション能力を高めることができるように、基礎及び応用練習やゲーム等をチームメイトやパートナーと協力して実施する。</p> <p>【クラス担当者】 69 濱中 良、90 福満 博隆</p>	

看護学科専門教育科目	専門基礎科目	看護構想科目	いのち	いのちをはぐくむ地球	(概要) この科目では、様々ないのちがはぐまれている地球という星がどのように誕生し、また宇宙を構成する星々との間に関係しながら存在しているのか、さらにそれらの星々と異なる地球の特性とはどのようなものであるのかについて学ぶ。そして、現時点において、いのちの存在が確認されている唯一の地球という星において、いのちがはぐくまれる条件を検討し、地球において生きていることの意味を深く洞察する。		
				地球で生きるいのち	(概要) 地球上のあらゆる生き物は様々な環境の中で互に見事なつながりを持ちながら、支えあって生きており、人間もこのつながりの中にある。このようないのちの支えあいが実際にどのようにおこなわれているのかについて学ぶ。その上で、地球上のいのちのつながりを途絶えさせる脅威としてどのようなことがおこっているのかについて、自分たちの身の回りの出来事と関連づけながら理解する。そして、いのちの支えあいを護るための取り組みとしてどのようなことがおこなわれているのかを探索し、その現状を理解するとともに、自分たちにできることを検討する。		
				教育方法学	(概要) 教育とは何か、その理念や実践の概要を学ぶ。教育学を概観することを通して、主体的に課題を発見し解決する力、学び続ける態度、グローバル社会で生きる力等、人として成長し続けるために必要な理論について学ぶ。そして、教育方法学で重視される実践家としての成長にかかすこのできない行為の中の省察の意義、省察の仕方、実践事例などについて学習することにより、自らが実践家として成長していくための省察を行えるようになることを目指す。		
				文化人類学	(概要) 世界には多様な価値観があり、異なる歴史的経緯をたどった人々がいる。“人種”、“民族”、宗教によるとされる対立もある。また、ジェンダー、社会的マイノリティの問題などが存在する。そうした興味深くも早急な解決は困難かもしれない重要な事柄があり、自分や自分たちとは異なる人々のことを知り、考えていかなければならない。そのような中に私たちは生きていることを深く認識すべきである。そして、私たちは自らを知って自らの視座を確認し、未来を切り拓いていかなければならない。まさにそのような、私たちが考えるべき事柄と密接に関係している文化人類学の諸テーマについて、一緒に考えていきたい。文化人類学の基本をおさえつつ、様々なトピックを採り上げ、知識や考え方を更新していく。授業では、随所に意見交換や討議なども取り入れながら実施し、一緒に授業を構築していく。		
				社会心理学	(概要) 社会心理学は、私たちの思考・感情・行動が他者や集団や社会・文化によりどのような影響を受けるかを実証的な観点から研究する心理学の一分野である。私たちは社会環境から情報を取り入れてそれを処理し行動の原動力としている。また、ふだん他の人たちと一緒に活動し、お互いに影響を及ぼし合っている。 本講義では、私たちが一人であるときをモデルにした個人行動、他の人々と一緒にいるときの二者間の行動、集団行動について取り上げる。主なトピックスは、(1)個人行動の心理学である社会的認知、社会的自己、動機づけ、態度と説得について、(2)対人行動の心理学である対人魅力、援助行動、攻撃行動について、(3)集団行動の心理学であるグループダイナミックス(集団の特徴・集団のパフォーマンス・集団の意思決定・リーダーシップ・集団間行動)についてである。		
				日本史特論	(概要) 私たちが住んでいる鹿児島という地域を、日本史・日本文化のなかでとらえ直すことで、そこから何が見えてくるのかを考える。鹿児島の歴史や文化を単なる地域史の視点にとどまることなく、日本史という大きな枠組みの中でどのように位置づけられるのか、また、日本全体の歴史に鹿児島という地域がどのように関わっていったのか、という問題について考えていく。町づくりや地域興しなどの際にも地域の文化を形成した歴史的背景を理解しておくことは有意義となる。		
				鹿児島の歴史	(概要) 九州南部は、古くから海外との交易が盛んで、そこから得た知識や情報を基に豊かな歴史・文化を築き、鹿児島の人々とそこで育まれた知識や技術は、幕末日本を牽引する原動力となった。講義ではそれらを通じて、より「ポジティブな鹿児島の歴史」について学ぶ。高校までの教科書には載っていない角度で歴史を見ていく。今まで習った歴史にとらわれず、自由な発想で聴講してもらいたい。		
			人間	生涯発達論	(概要) ライフサイクルの各段階に特徴的な行動や心理について学ぶことは人間を理解する上で不可欠である。この科目では、人間を受精から死に至るまで生涯にわたって発達的変化を続ける存在として位置づけ、環境とのかかわりの中で様々な心的機能がどのように発達的変化を遂げていくのか理解を深める。		
				地域社会論	(概要) 本講義では、「地域社会」論というよりも、「地域」なるものをめぐる現代社会論というスタンスをとり、とくに「地方都市」を対象に据えて、消費社会論の視点から私たちの生きる現在を考える。 授業の方法としては、地域社会の現在を取り上げたドキュメンタリーやニュース番組などの視聴も交えながら進める。		
				まちづくり概論	(概要) 鹿児島の「まちづくり」の活動事例を参考に、「まちづくり」を様々な角度から考えていく。そして、①「まちづくり」とは何かを理解する、②「まちづくり」に係る基本概念を学ぶ、③鹿児島県や鹿児島市などの「まちづくり」の事例を学び、「まちづくり」に関心を持ち、自分が住む地域への意識や知識を高めることを到達目標とする。		
				地域経済論	(概要) 私たちの身近な存在である地域経済は、いったいどうなっているのだろうか。授業ではSDGsから地域経済のあるべき姿を考え、それをもとに現実を評価し、どう変えていくかという視点で、地域経済をみていきたい。そして、諸外国との比較という視点も取り入れて、日本の抱える問題をより鮮明にしたい。また、地域経済の歴史的変遷も踏まえ、江戸時代後期の改革を行った歴史的人物にも光を当てる。現代とは事情を異にするものの、改革者たちはどんな問題に直面し、どう解決していったのか。それを知り、その教訓に学ぶことは、現代の諸問題とその解決策を考える上でも、大きなヒントになる。 その上で、地域経済は世界経済や日本経済とどんな関係にあるべきか、地域経済は私たちの生活とどうかかわっているのか、等の問題をSDGsをキーワードに考えていきたい。		
				環境経済論Ⅰ	(概要) 大量生産・大量消費・大量廃棄システムにより、私たちは豊かな生活を築いてきたが、このシステムはもはや限界にきている。福島第一原発の事故は、そうした現実を私たちに突き付けたといえよう。 この授業では、公害や環境破壊の実態がどのようなものであったのか、現状はどうなっているのかを学び、環境をめぐる仕組みを理解するとともに、私たち一人ひとりがこのような現実に対して、主体的にどう立ち向かい、どう変え、環境を保全していくことができるかを考えていく。		
				暮らし			

看護学科専門教育科目	専門基礎科目	看護構想科目	暮らし	環境経済論Ⅱ	(概要) 地球環境の悪化にともない、持続可能な循環型社会への転換の必要性が認識されてきたが、循環型社会を今後本格的に築いていくためには、現在の大量生産・大量消費・大量廃棄そして大量リサイクルのシステムを根本的に変えていく必要がある。そしてその一環として、私たちは循環型社会にふさわしい暮らしとは何かを考え、そうした暮らしをめざさなければならない。 具体的には、リデュース・リユース・リサイクルを推進する3Rの活動をはじめ、ソーラーや風力発電などの再生可能エネルギーの利用、雨水や木材などの再利用、長持ち商品の活用、環境家計簿などグリーンコンシューマーとしての活動、あるいは環境にやさしいまちづくりなどを、実践例の紹介やドイツとの比較などを通して考えていく。	
				医療情報活用論	(概要) 今日の情報通信技術 (ICT) や人工知能 (AI) 等の技術の発展は目覚ましく、それらの医療における情報活用の現状や今後の可能性、課題等について学び、人々の健康や生態環境に資する活用の仕方について考える。	別表1、別表3複数教授科目 (シラバス添付)
				暮らしをまもる制度	(概要) 少子高齢化が急速に進展し、社会福祉や社会保障が変革期にある現在、そこに至る歴史、現在何が行われ、今後どこを目指しているかを理解し、暮らしをまもる制度について学ぶ。具体的には、社会福祉や社会保障の目的や機能、仕組みや実践方法、地域福祉の推進をどのように行うのかについて学ぶ。さらに、子ども、障害者、高齢者等対象別にみた諸制度、生活保護、社会保障制度についても理解し、看護の対象の暮らしをまもるための制度に対する理解を深める。	別表1、別表3複数教授科目 (シラバス添付)
			健康	からだの仕組みと働きⅠ	(概要) 本科目では、人体を構成する細胞・組織・器官などの形態とその機能について系統別に学ぶ。人体をつくる器官を細かく掘り下げ、人体とその器官の構造と機能について、組織・細胞、分子の働きから成り立つものとして学んでいく。体の仕組みと働きⅠでは、生命を維持する働きとして、呼吸、循環、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌機能について学ぶ。「生活機能援助論」における学習、特に生活機能と関連させながら学び、健康の回復や保持増進に向けた支援を理解する重要な基礎となる。	
				からだの仕組みと働きⅡ	(概要) 本科目では、人体を構成する細胞・組織・器官などの形態とその機能について系統別に学ぶ。人体をつくる器官を細かく掘り下げ、人体とその器官の構造と機能について、組織・細胞、分子の働きから成り立つものとして学んでいく。体の仕組みと働きⅡでは、生命を維持する働きとして、呼吸、循環、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌機能について学ぶ。「生活機能援助論」における学習、特に生活機能と関連させながら学び、健康の回復や保持増進に向けた支援を理解する重要な基礎となる。	
				代謝と栄養	(概要) 人間の健康と代謝・栄養について基本的な考え方を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (80 侯 徳 興/8回) 生化学を学ぶための基礎知識及び代謝の基礎と酵素・補酵素の理解をふまえて三大栄養素である糖質、脂質、タンパク質の構造と機能、ビタミン、ミネラル等の代謝について学ぶ。今日的な代謝に関連するトピックも取り上げる。 (114 崎向 幸江/7回) 人の健康の保持増進、健康回復にとって不可欠となる栄養に関する課題を解決するための方法について学ぶ。具体的には栄養状態のアセスメント、各種食事療法について学ぶ。	オムニバス方式
				からだの異常と発生メカニズム	(概要) 病気とは何か、病気の原因としてどのようなものがあるのかについて、細胞の障害の発生とその修復のメカニズムについて学ぶ。具体的には、循環障害、炎症、免疫不全、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍、外的要因による障害等について学ぶ。	
				感染と防御	(概要) 感染を引き起こす微生物とはどのようなものか、どのような病気を起こすのか、それに対してどのように対処すべきかについて学ぶ。具体的には、微生物という生命体を理解した上で、感染症の症状、治療について学ぶ。また、生体の重要な防御機構である免疫学、その応用、感染予防方法の原理を理解し、院内感染制御や感染症の対策や予防を、明確な根拠を持って実践できる基礎を身につける。	
				からだの異常の診断技術	(概要) 解剖見学を通して、からだに異常が発生した状態を肉眼的に理解する。そして、それらを基に診断技術を用いて、間接的に解明し捉える方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (81 城ヶ崎 倫久/7回) 循環機能検査、呼吸機能検査、神経機能検査の代表的な検査について学ぶ。 (97 井手上 淳一/8回) 人間の放射線の作用と健康への影響、リスク、被爆防護対策を学ぶ。また、画像情報による異常の発見の仕方について学ぶ。 併せて、先進医療についての動向と課題について学ぶ。	オムニバス方式
				薬理学	(概要) 薬が作用する仕組み、薬の薬物動態、薬物相互作用等の薬理学の基礎知識について学ぶ。さらに、抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬等様々な作用機序をもつ薬の特徴と、副作用が発現する機構についての知識を的確に理解し、より適切な医療に役立つ力を養う。	
				働く人の健康	(概要) 医学的な知見を活用し、人々の健康や安全を守るための様々な取り組みについて学ぶ。特に、「働く人」に焦点を当てて、「働きつづけるため」の健康と安全に関する話題を学ぶ。	別表1、別表3複数教授科目 (シラバス添付)
				健康障害とその治療Ⅰ	(概要) 解剖生理学等の知識を基にして、循環器系、消化器系、呼吸器系、血液・造血器系器官においてどのような疾病が存在するのを知り、その病態を科学的、理論的に理解し、検査・診断法、治療法の概要について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (77 中島 均/5回) 循環器系の代表的な疾患について、病因・病態と治療について理解を深める。 (105 森内 昭博/5回) 消化器系の代表的な疾患について、病因・病態と治療について理解を深める。 (94 東元 一見/3回) 呼吸器系の代表的な疾患について、病因・病態と治療について理解を深める。 (82 大塚 真紀/2回) 血液・造血器系の代表的な疾患について、病因・病態と治療について理解を深める。	オムニバス方式

専門基礎科目	看護構想科目	健康	健康障害とその治療Ⅱ	(概要) 解剖生理学等の知識を基にして、腎・泌尿器、生殖器系、内分泌系、脳・神経・筋肉系、骨・関節系、感覚器系においてどのような疾病が存在するのを知り、その病態を科学的、理論的に理解し、検査・診断法、治療法の概要について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (119 宮元 一隆/3回) 腎・泌尿器、生殖器系の代表的な疾患について病因・病態と治療について理解を深める。 (89 郡山 暢之/3回) 内分泌系の代表的な疾患について病因・病態と治療について理解を深める。 (99 松岡 秀樹/4回) 脳・神経・筋肉系の代表的な疾患について病因・病態と治療について理解を深める。 (109 川畑 英之/2回) 骨・関節系の代表的な疾患について病因・病態と治療について理解を深める。 (83 松崎勉/1回) 感覚器系の代表的な疾患について病因・病態と治療について理解を深める。 (102 松下茂人/2回) 感覚器系の代表的な疾患について病因・病態と治療について理解を深める。	オムニバス方式
			健康障害とその治療Ⅲ	(概要) (オムニバス方式/全15回) (110 恒松 良祐/8回) (産婦人科医療) 婦人科特有の疾病の病因・病態と治療、また不妊治療について理解を深める。産科における正常分娩、正常妊娠・異常妊娠、遷延分娩について、その病因、病態の理解を深める。 (93 田中 裕治/7回) (小児科医療) 小児の健やかで幸福な成長をサポートするために常に変化(発育・発達)する小児の特徴を理解して、小児の疾患の予防と治療について学ぶ。	オムニバス方式
			健康障害とその治療Ⅳ	(概要) (オムニバス方式/全15回) (85 中崎 満浩/8回) (高齢者医療) 超高齢社会を迎え高齢者に多い疾患(認知症、骨粗鬆症、肺炎等)と診断、治療、虚弱等について学習し日常生活への影響とその予防について考える。 (55 林 岳宏/7回) (精神科医療) 精神と健康との関係について理解したうえで、精神科診断と治療について総論的に学び、精神科臨床において重要な精神疾患について、その診断、病因、治療、経過予後等を今日的な視点(性的違和を含む)を交えて理解を深める。	オムニバス方式
			保健統計学	(概要) 地域保健活動や健康課題の解決を目指し集団の特徴を数値で把握し分析しようとする際に必要となる保健統計学の基礎について学ぶ。具体的にはデータの種類と分布、関連の指標、統計分析、統計調査の表現・解釈にあたって気をつけることなどについて学び、保健統計上の数値や用語の意味することを的確に判断、解釈できるようになる。また、人口統計や保健統計調査を基に示される様々な健康指標をデータベースや文献・図書などから検索し、その推移や現状を把握して、集団や地域の健康課題について検討できるようになることを目指す。	別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
			疫学	(概要) この科目では、集団の健康あるいは異常の発生状況をとらえる指標を用いて、健康課題とその要因となるものの関係を調べ、人々の健康増進や疾患の予防に役立てようとする際に必要となる考え方や手法について学ぶ。	別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
			健康をまもる法律	(概要) 法とは何か、法概念、衛生法、厚生労働行政の仕組みを理解する。具体的には、看護法、医事法、保健衛生法、薬務法、労働法、環境法等、健康をまもる法律を学び、看護師に付与されている権限、義務、体系等を理解し、国民が健康的に生活するための法的基盤を踏まえた看護実践ができるようになるための素地を身につける。看護師、保健師等に法律がどのように関わっているか、何故法律による規制があるのかを学修するが、その前提として看護職が人々の健康を守り、その職務を全うするためには、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ諸法令の理解が必要である。これまでに発生した事故、事例を通して専門職としての責任や義務を検討し、身につけた専門知識をもとに、根拠に基づいた判断と行動ができるようになることを目指す。	別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
			保健医療福祉行政論	(概要) 地域の保健医療福祉行政の現状の理解とともに、それらの実現に向けて具体的な地域の健康課題が政策としてどのように取り上げられ解決に導かれているのかという政策形成過程や、関係法規、施策のための関連機関との連携・調整のほかり方、住民サービスの実際、地域の健康課題解決過程などについて学ぶ。 (共同(一部)/全15回) (3 米増直美/3回) 人々の暮らしを守る法律や制度、行政の役割について学ぶ。葉害対策の歴史的経緯を事例に、葉害被害者のヘルスニーズや思いの実際から、人々の健康を守る制度や仕組みの重要性を学ぶ。 (3 米増直美・10 稲留直子/12回) (共同) 地域の保健医療福祉行政の現状の理解とともに、それらの実現に向けて具体的な地域の健康課題が政策としてどのように取り上げられ解決に導かれているのかという政策形成過程や、関係法規、施策のための関連機関との連携・調整の方法、住民サービスの実際、それらの地域の健康課題解決過程の評価などについて、事例を用いた演習を通して学び、人々がより健康的な暮らしを営めるようにするための社会的仕組みを理解する。	共同(一部)講義:6時間 演習:24時間  別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
専門科目	看護導入科目	いのち	いのちと看護	(概要) 「いのち」に関する共通教育科目や専門基礎科目の学習を通して獲得した成果を基に、いのちをまもり、はぐくみ、つないでいくためには、どのようなことが必要であり、それらと看護がどのように関連するかを洞察できるようになることを目指す。 (共同(一部)/全8回) (4 鳥越郁代/4回) 地球上のいのちがどのようにしてはじまり、今日のいのちに繋がってきているのかを生命史の観点から理解する。そして、生きものであり、自然の一部である人間はどのようにして誕生し、様々な環境とどのように関連しあいながらはぐくまれるのかを学ぶとともに、そのようないのちの営みを脅かす環境的要因(生物学的・物理的・化学的要因を含む)としてどのようなことが指摘されているかを探求的に理解する。 (4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・12 武亜希子・16 西頭知子・21 梅木由紀/4回) (共同) グループ学習として「地球をまもるために」をテーマに、グループ毎に関心のある取り組みやその考え方について調べ、それらをもとにいのちがはぐくまれる地球であるためには、何が必要かを検討、提言できるようにする。そして、「いのちの尊厳を護る」ことに対する各自の考え方を説明できるようになることを目指す。	共同(一部)講義:8時間 演習:7時間

看護学科専門教育科目	専門科目	看護構想科目	看護導入科目	人間	人間と看護	<p>(概要) 「人間」に関する共通教育科目や専門基礎科目の学習を通して獲得した成果を基に、いのちをまもり、はぐくみ、つないでいくためには、人間としてどのようなことが求められているのか、「人間が共存できる仕組みの創造」をグループ学習を通して検討し、看護としてそのことにどのようにかかわれるのかを考えることができる。</p> <p>(共同 (一部) /全8回)</p> <p>(7 河口朝子/3回)</p> <p>看護学における人間と看護の捉え方について、人々が環境に適応しながら生きていることや看護のあり方を教授する。また、自然環境の変化、地域環境の変化など環境の変化に適応しながらいのちを護り、はぐくみ、つないでいくために、看護がどのようにかかわればいいのか検討の素材を提供し、多様性のある人々との共存について多角的に検討し、洞察できるようにする。</p> <p>(7 河口朝子・18 野中弘美・21 梅木由紀・23 小原めぐみ・26 水迫友和/5回) (共同)</p> <p>グループ学習として「人間が共存できる仕組みの創造」をテーマに、グループ毎に関心のある分野における共存(例：自然環境と人間の共存、人口減少地域の人々との共存、多様な人々との共存)の考え方について調べ、それらをもとに人間が様々ないのちと共存していくためにどのような仕組みが必要かを検討し、グループ発表して、全体討議する。そして、「いのちの尊厳を護る」ための共存において、自身のことを検討し説明できるようになることを目指す。</p>	<p>共同 (一部)</p> <p>講義：8時間</p> <p>演習：7時間</p> <p>DP1:学習成果評価の重要科目</p>
				暮らし	暮らしと看護	<p>(概要) 「暮らし」に関する共通教育科目や専門基礎科目の学習を通して獲得した成果を基に、いのちをまもり、はぐくみ、つないでいく暮らしとはどのようなものであり、看護としてそのことにどのようにかかわれるのかを検討し考えることができる。</p> <p>(共同 (一部) /全8回)</p> <p>(8 丹羽さよ子/4回)</p> <p>地域において個人、家族、集団による日々の暮らしの営みが、どのように支えられているのかを具体的に探求し、理解する。そして、それらの支えが、いのちをまもり、はぐくみ、つなぐこととどのように関連しているかを検討し、健全な暮らしが営まれるために必要なことがらについて洞察できるようにする。</p> <p>(8 丹羽さよ子・9 塩満智子・13 安藤光子・14 小玉博子・20 久富木有加・24 春田陽子・25 平松明子・26 水迫友和/4回) (共同)</p> <p>グループ学習として「暮らしの中の社会資源」をテーマに、グループ毎に関心のある社会資源を調べ、いのちをまもり、はぐくみ、つなぐという観点から、調査した社会資源の現状を検討し、よりよい社会資源となるための提言をグループ発表後、全体討議する。そして、「その人らしい地域での暮らしを支える」とはどのようなことなのかについての自身の考え方を説明できるようにすることを旨とする。</p>	<p>共同 (一部)</p> <p>講義：8時間</p> <p>演習：7時間</p>
				健康	健康と看護	<p>(概要) 「健康」に関する共通教育科目や専門基礎科目の学習を通して獲得した成果を基に、健康とはどのようなものであり、看護としてそのことにどのようにかかわれるのかを検討し考えることができる。</p> <p>(共同 (一部) /全8回)</p> <p>(3 米増直美/2回)</p> <p>講義の前半では、慢性疾患や高齢者人口の増大により、「健康」と「不健康」を区分する境界が曖昧になり、個人の健康状態を、疾病中心に捉える「医学モデル」から個人と環境との相互関係として全体的に理解しようとする「生活モデル」に転換してきていることが、どのように医療や保健施策の変化をもたらしてきているのかを探求、検討し、洞察できるようにする。</p> <p>(3 米増直美・9 塩満智子・10 稲留直子・11 中俣直美・22 持留里奈・23 小原めぐみ/6回) (共同)</p> <p>社会の中で生きている人間には、ヒト個々が発揮する「自然治癒力」を含む「自助力」と、子どもの生み育て、要介護者や障害者を守り世話をする地域社会の「互助力」があり、両者がコミュニティのなかで機能することにより、人々の健康生活が支えられている。グループ学習として「人間の自然治癒力」がどのようなものであり、そのメカニズムと働き、それらを最大限に発揮するためにどのような働きかけが必要かを社会環境条件も含めて調べ、それらが健康増進・回復とどのように関連するかを検討し、グループ発表後、全体討議する。そして、自然治癒力に働きかけることと生活モデルを基に看護することとの関連を説明できるようにすることを旨とする。</p>	<p>共同 (一部)</p> <p>講義：4時間</p> <p>演習：11時間</p> <p>DP2:学習成果評価の重要科目</p>
				看護	看護への招待	<p>(概要) 看護とはどのようなものかを探求し、自身に芽生えた看護観を明確に記述・表明できるようにする。そして、4年間で学ぶ学習内容を意味付け方向づけられるようになる。</p> <p>(共同 (一部) /全15回)</p> <p>(1 堤由美子/2回)</p> <p>看護とは何かについて探求するために、各自の考えている看護について表明、記述する。看護の体験を他者と共有したり活用するために不可欠な帰納的思考と演繹的思考の仕方を具体例を通して理解し、活用できるようにする。</p> <p>(1 堤由美子・2 中馬成子・4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・7 河口朝子・8 丹羽さよ子/7回) (共同)</p> <p>グループ学習において、提示された資料(事例・著書・動画など)に記述されている看護について検討し、看護を成立させている諸要素(キーワード)にはどのようなものがあるかを帰納的思考を基に抽出し、その結果を全体討議し、自分たちの考える看護とはどのような行為であるかを重要な要素を用いつつ説明できるようにする。</p> <p>(1 堤由美子/6回)</p> <p>次いで、今日様々な専門分野から注目されている概念や考え方を示した文献を抄読し、自分たちの考える看護とどのように関連するかを検討する。さらに、はじめに表明した各自の看護と比較・検討し、学びを通して獲得した自身の看護観を再記述・表明する。</p> <p>そして、各自の看護観に基づく看護を実践できるようにするために、どのような能力を獲得すべきであるかを確認し、これから卒業するまでの教育課程において学ぶ科目の意義を理解し、自身の学習の仕方を方向づけることができるようになる。</p>	<p>共同 (一部)</p> <p>講義：16時間</p> <p>演習：14時間</p>

看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	看護学概論	<p>(概要) 看護の歴史的発展を概観し、今日の看護が果たしている役割と活動の場について、社会状況や法的側面、看護理論の観点から探求、検討し、看護職としてどのような役割を担う必要があるのかを自ら考え理解できるようになる。 (オムニバス方式/全15回) (2 中馬 成子/11回) 看護の歴史を踏まえて、看護職が今日どのような法的位置づけの基で、どのような場で活動しているかを理解できる。そして、看護の果たすべき役割を実践科学として確立するために、先人たちが開発してきた代表的理論において、看護実践を説明する主要概念とされる人(患者)、環境、健康、看護(目的、役割、機能)がどのように捉えられ関係づけられているかを探求、理解し、看護への招待で明らかにした自身の看護観と比較検討して、自身の看護観をより深く洞察し、説明できるようになることを目指す。 (10 稲留直子/2回) 海外での保健医療活動の経験を通して、人種、異なる文化、国籍等、様々な背景を有する多様な対象を尊重し、保健医療活動を展開するためにはどのようなことが必要となるかを学び、グローバル化する社会の中での看護の役割について考え、検討する。 (122 岩穴口孝/2回) 今日の情報通信技術 (ICT)や人工知能 (AI)等の技術の発展は目覚ましく、それらの医療における活用の現状や今後の可能性、課題等について学び、人々や生態環境に資する活用の仕方について考える。</p>	オムニバス方式
					援助関係論	<p>(概要) 看護実践においてコアとなる援助関係を築くために必要とされる専門的知識と関係技術について、理論や事例を通して体系的、かつ実践的に学習する。 (共同 (一部) /全15回) (1 堤由美子/10回) 社会状況の変化に伴いどのような看護の援助関係(ICや自己情報コントロール権の尊重など)が求められるようになっていくか理解する。そして、対象の尊厳を護り、対象から信頼される関係構築のために看護職に求められるものはどのようなことかを、看護の対人関係理論を踏まえつつ、探求的に理解する。 その上で、これまで築いてきた各自の他者との関わり方を、看護職に求められる専門的な援助関係に発展させるために必要な基本的知識について学ぶ。そして事例演習を通して、各自の他者を手助けする関わり方について洞察し、援助関係を築くための課題と対策を明確にすることを旨とする。 (1 堤由美子・13 安藤光子・22 持留里奈・23 小原めぐみ・24 春田陽子・25 平松明子/5回) (共同) 演習事例を基に実際に看護の対象への関わりを実践し、各自の援助関係を築くための課題と対策を明確にする。</p>	共同 (一部) 講義: 20時間 演習: 10時間
					看護倫理	<p>(概要) 医療の場で直面する倫理的問題及び法的問題に気づき、生命の尊厳を認識した望ましい行動がとれるための倫理的基盤について学習する。それらの学びを基に、看護実践に不可欠な倫理的判断のために必要な基本的知識を学び、いのちをまもり、はぐくみ、つなぐこととどのように関連するのかを検討し、倫理的判断の重要性を理解する。さらに、看護の対象の尊厳をまもるために不可欠な意思決定支援に関する考え方、基礎知識、その実際について学ぶ。その上で模擬事例の討議検討を通して、看護実習において必要となる倫理的判断能力を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (2 中馬成子/10回) 看護を行う上で看護の対象者の人権を尊重し、看護職者としての責任を果たすために必要な知識と倫理的な関わり方について理解し、倫理的ジレンマを抱える問題場面を解決する思考を修得する。 (70 江口恵子/5回) 看護の対象の尊厳を守り、その対象の意向を尊重した医療・ケアの実践における倫理的な課題と対応について理解し、看護職としてどのような対応が望まれるか、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) について学ぶことを通じて検討し、倫理的な対応能力を育成する。</p>	オムニバス方式
					生活機能援助論 I : 安全をまもる機能	<p>(概要) この科目では、人の「安全をまもる機能」について、解剖生理の理解を基に、各機能の向上・改善のための看護技術について、従来の基礎技術と専門技術、臨床看護総論を統合的に学習する。また、自己の「安全をまもる機能」と関連づけつつ、機能向上と改善技術を検討・考案する思考過程を繰り返し体験、実演することにより、患者の示す「安全をまもる機能」に関する初期症状に対応できる看護実践能力の基礎を育成する。 (共同 (一部) /全15回) (11 中俣直美/7回) 人の「安全をまもる」を支える「皮膚・免疫系」の機能の解剖生理を理解し、まずそれらが正常に機能するためにはどうすればよいか、感染を予防するにはどうすればよいかを、環境の調整も含めて自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体討議して、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある清潔保持法と感染予防法、機能向上法を実演を通して身につけることができるようになる。 次いで、皮膚・免疫系の機能障害による代表的な症状等(褥瘡・呼吸器系感染症・免疫不全症など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復にむけてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体討議して、効果的な援助法を創出する。そして、一般的援助法と比較検討し、根拠のある支援法を明らかにし、実演を通して身につけることができるようになる。また、感染予防のためのスタンダードプリコーションや感染経路別予防策などの他、二次感染防止のための感染性廃棄物、カテーテル関連血流動の取り扱いについても、適切な対処ができることを目指す。 (11 中俣直美・2 中馬成子・12 武亜希子・15 有村優子・17 一宮絵美・18 野中弘美・19 石川志保・22 持留里奈・23 小原めぐみ/8回) (共同) 「安全をまもる機能」の状態をアセスメントして、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。 本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同 (一部) 講義: 14時間 演習: 16時間

看護学科専門教育科目	看護実践コア科目	看護	<p>生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能</p> <p>(概要) この科目では、人の「生きるを支える機能」について、解剖生理の理解を基に、各機能の向上・改善のための看護技術について、従来の基礎技術と専門技術、臨床看護総論を統合的に学習する。また、自己の「生きるを支える機能」と関連づけつつ、機能向上と改善技術を検討考案する思考過程を繰り返し体験、実演することにより、患者の示す「生きるを支える機能」に関する初期症状に対応できる看護実践能力の基礎を育成する。 (共同(一部)/全15回) (6 山田巧/7回) 人の「生きる」を支える「代謝・恒常性の維持」と「中枢神経・呼吸」機能の解剖生理を理解し、まずそれらが正常に機能するためにはどうすればよいかを、自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体討議して、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある機能向上法を確認し、実行できるようになる。 次いで、それらの機能の障害による代表的な症状等(発熱、循環不全、呼吸困難など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復にむけてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体討議して、効果的な援助法を創出する。そして、一般的援助法と比較検討し、根拠のある支援法を明らかにし、演習を通して身につけることができるようになる。 (6 山田巧・11 中俣直美・12 武亜希子・15 有村優子・17 一宮絵美・18 野中弘美・19 石川志保・22 持留里奈・23 小原めぐみ/8回) (共同) 「生きるを支える機能」の状態をアセスメントして、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。 本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同(一部) 講義：14時間 演習：16時間
			<p>生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能</p> <p>(概要) この科目では、人の「食物・水分摂取を支える機能」について、解剖生理の理解を基に、各機能の向上・改善のための看護技術について、従来の基礎技術と専門技術、臨床看護総論を統合的に学習する。また、自己の「食物・水分摂取を支える機能」と関連づけつつ、機能向上と改善技術を検討考案する思考過程を繰り返し体験、実演することにより、患者の示す「食物・水分摂取を支える機能」に関する初期症状に対応できる看護実践能力の基礎を育成する。 (共同(一部)/全15回) (2 中馬成子/7回) 人の「食物・水分摂取」を支える「神経系、咀嚼、嚥下、消化・吸収」の機能の解剖生理を理解し、まずそれらが正常に機能するためにはどうすればよいかを、自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある機能向上法を実演を通して身につけることができるようになる。 次いで、それらの機能障害による代表的な症状等(脱水、嘔吐、嚥下障害、消化吸收異常など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復にむけてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な援助法を創出する。そして、一般的援助法と比較検討し、根拠のある支援法を明らかにし、実演を通して身につけることができるようになる。 (2 中馬成子・6 山田巧・13 安藤光子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・21 梅木由紀・24 春田陽子・26 水迫友和/8回) (共同) 「食物・水分摂取を支える機能」の状態をアセスメントして、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。 本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同(一部) 講義：14時間 演習：16時間
			<p>生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能</p> <p>(概要) この科目では、人の「排便・排尿を支える機能」について、解剖生理の理解を基に、各機能の向上・改善のための看護技術について、従来の基礎技術と専門技術、臨床看護総論を統合的に学習する。また、自己の「排便・排尿を支える機能」と関連づけつつ、機能向上と改善技術を検討考案する思考過程を繰り返し体験、実演することにより、患者の示す「排便・排尿を支える機能」に関する初期症状に対応できる看護実践能力の基礎を育成する。 (共同(一部)/全15回) (12 武亜希子/7回) 人の「排便・排尿」を支える「腎臓、膀胱、神経系、大腸、肛門」の機能の解剖生理を理解し、まずそれらが正常に機能するためにはどうすればよいかを、自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある機能向上法の実演を通して身につけることができるようになる。 次いで、それらの機能障害による代表的な症状等(排尿障害、排便障害、人工肛門など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復にむけてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な援助法を創出する。そして、一般的援助法と比較検討し、根拠のある支援法を明らかにし、実演を通して身につけることができるようになる。 (12 武亜希子・15 有村優子・16 西頭知子・17 一宮絵美・18 野中弘美・19 石川志保・21 梅木由紀・22 持留里奈・23 小原めぐみ・25 平松明子/8回) (共同) 「排便・排尿を支える機能」の状態をアセスメントして、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。 本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同(一部) 講義：14時間 演習：16時間



看護学科専門教育科目	看護実践コア科目	看護	生活機能援助論 V ：動くを支える機能	<p>(概要) この科目では、人の「動くを支える機能」について、解剖生理の理解を基に、各機能の向上・改善のための看護技術について、従来の基礎技術と専門技術、臨床看護総論を統合的に学習する。また、自己の「動くを支える機能」と関連づけつつ、機能向上と改善技術を検討考案する思考過程を繰り返し体験、実演することにより、患者の示す「動くを支える機能」に関する初期症状に対応できる看護実践能力の基礎を育成する。</p> <p>(共同 (一部) /全15回) (8 丹羽さよ子/7回)</p> <p>人の「動く」を支える「筋、骨格系、神経系」の機能の解剖生理を理解し、まずそれらが正常に機能するためにはどうすればよいか、自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、安楽なポジショニングや衣類の選択、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある機能向上法の実演を通して身につけることができるようになる。</p> <p>次いで、それらの機能障害の原因になりやすい転倒・転落や代表的な機能障害の症状等(脳卒中麻痺、骨折、廃用症候群など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、転倒・転落防止法、そして機能障害による症状の苦痛を取り除き、機能回復にむけてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な援助法を創出する。また、障害により清潔行動・衣生活の自立困難となった人への援助について検討する。そして、一般的援助法と比較検討し、根拠のある支援法を明らかにし、実演を通して身につけることができるようになる。</p> <p>(8 丹羽さよ子・6 山田巧・12 武亜希子・14 小玉博子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・20 久富木有加・24 春田陽子・25 平松明子・26 水迫友和/8回) (共同)</p> <p>「動くを支える機能」の状態をアセスメントして、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。</p> <p>本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同 (一部) 講義：14時間 演習：16時間
			生活機能援助論 VI ：休むと情報交換を支える機能	<p>(概要) この科目では、人の「休むと情報交換を支える機能」について、解剖生理の理解を基に、各機能の向上・改善のための看護技術について、従来の基礎技術と専門技術、臨床看護総論を統合的に学習する。また、自己の「休むと情報交換を支える機能」と関連づけつつ、機能向上と改善技術を検討考案する思考過程を繰り返し体験、実演することにより、患者の示す「休むと情報交換を支える機能」に関する初期症状に対応できる看護実践能力の基礎を育成する。</p> <p>(共同 (一部) /全15回) (13 安藤光子/7回)</p> <p>人の「休むと情報交換」を支える機能の解剖生理を理解し、まずそれらが正常に機能するためにはどうすればよいかを、自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある機能向上法を実演を通して身につけることができるようになる。</p> <p>次いで、それらの機能障害による代表的な症状等(睡眠障害、認知障害、聴覚障害、発声障害など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復にむけてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な援助法を創出する。そして、一般的援助法と比較検討し、根拠のある支援法を明らかにし、実演を通して身につけることができるようになる。</p> <p>(13 安藤光子・1 堤由美子・11 中俣直美・14 小玉博子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・20 久富木有加・24 春田陽子・25 平松明子・26 水迫友和/8回) (共同)</p> <p>「休むと情報交換を支える機能」の状態をアセスメントして、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。</p> <p>本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同 (一部) 講義：14時間 演習：16時間
			生活機能援助論 VII ：子どもを産み育てることを支える機能	<p>(概要) この科目では、「子どもを産み育てることを支える機能」について、解剖生理の理解を基に、成育看護の実践に必要なヘルスアセスメント技術や健康教育、治療や検査・処置を受ける対象への具体的な看護について既修の基礎的な看護技術をもとに、対象者の特性に応じたより健康的な生活をまもるための適切な看護技術を創出することを学習する。</p> <p>成育過程にある対象者の身体・心理・社会的特徴を理解し、より健康的に生活するためにはどうすればよいかを、自身の生活を振り返りつつ、グループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な機能向上法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある機能向上法を実演を通して身につけることができるようになる。</p> <p>(共同 (一部) /全15回) (16 西頭知子/7回)</p> <p>「子どもを産み育てることを支える機能」としての「生殖」に関する形態機能学的側面を理解し、まずそれらを機能するためにはどうすればよいかについて、自身の生活を振り返りつつ、検討・考案し、全体で討議して効果的な機能向上法を創出する。また「生殖」に関する形態機能の障害による代表的な症状(月経困難症・月経異常・性感感染症など)について、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復に向けてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して効果的な機能向上法を創出する。</p> <p>次いで、乳幼児の成長発達段階ならびに身体・心理・社会的特徴の理解をもとに、その健康的な日常生活を支える効果的な援助について検討する。</p> <p>(4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・16 西頭知子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・20 久富木有加・21 梅木由紀・22 持留里奈/8回) (共同)</p> <p>子どもの急性症状(発熱、脱水、下痢・嘔吐、呼吸困難・けいれん等)を理解し、発生メカニズムとアセスメントの仕方を探求的に理解し、症状による苦痛を取り除き、機能回復に向けてどうすればよいかをグループで実演しながら検討・考案し、全体で討議して効果的な機能向上法を創出する。また治療や検査が必要な幼児期以降の子どもに対する心理的準備(プレパレーション)としての技術について学び、グループで効果的な技術を考案し、全体で討議して効果的な心理的準備(プレパレーション)のための支援について創出する。</p> <p>「子どもを産み育てることを支える機能」について、根拠をもって適切な援助を実施できるように、演習を通して身につけることができるようになる。本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	共同 (一部) 講義：14時間 演習：16時間  別表1、別表3複製教授科目(シラバス添付)

看護学科専門教育科目	専門科目	看護実践コア科目	看護	<p>生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助</p> <p>(概要) この科目では、救急救命の場において求められるアセスメントや救命のための技術について学ぶ。そして、対象が安全に安心して治療・検査・診察を受けられるようにするための看護について学ぶ。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (6 山田巧/2回) 救急救命では、生命を脅かす急激な侵襲に直面している対象に専門的ケアを行う際に求められる、全身の系統別アセスメント法、心肺蘇生法、呼吸管理法、体液・循環管理法、栄養管理、鎮痛・鎮静法、体温管理法、感染予防法、精神機能障害予防・対応法など、生命の維持・回復のために必要な技術を実践的に学ぶ。加えて救急救命事態にある対象やその家族の人権を尊重した看護について考え理解できるようにする。 (11 中俣直美/2回) 診療の補助の技術では、創傷管理技術(チューブ類の誤抜去防止含む)、薬物療法援助技術(誤薬・針刺し・抗がん剤暴露防止を含む)、放射線療法援助(放射線暴露防止含む)、診察・検査・処置の介助技術について実践的に学ぶ。そして、対象が安全に安心して治療・検査・診察を受けるための看護について考え理解できるようにする。 (6 山田巧・11 中俣直美・12 武亜希子・14 小玉博子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・23 小原めぐみ・24 春田陽子・26 水迫友和/11回) (共同) 救急救命事態における系統的アセスメント、援助法、そして診療の補助技術について理解し、実施のための基礎を身につける。また、本科目への自身やグループの全学習取り組みについて振り返り、効果的な学習法上の課題を明確化し、その後の学習に活かせるようにする。</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義：8時間 演習：22時間
				<p>生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開</p> <p>(概要) この科目では、前半では、生活機能援助論のⅠ～Ⅷにおいて学習・演習してきた看護技術を、在宅療養者にどのように提供するののかについて学ぶ。後半では、生活機能援助論のⅠ～Ⅷにおいて学習・演習してきた看護技術を総合的に活用しながら事例に活用し、実習において実施するための看護技術力を育成する。 (共同/全15回) (14 小玉博子・7 河口朝子・8 丹羽さよ子・11 中俣直美・17 一宮絵美・18 野中弘美・20 久富木有加・22 持留里奈・25 平松明子・26 水迫友和/7回) (共同) 生活機能援助論Ⅰ～Ⅷにおいて学習・演習してきた看護技術を、訪問看護の場面で、在宅等の暮らしの場で療養している対象にどのように提供するののかを、グループで演習しながら検討・考案し、全体で討議して、効果的な提供法を創出する。そして、一般的に推奨されている方法と比較検討し、根拠のある提供法を実演を通して身につける。 (2 中馬成子・11 中俣直美・13 安藤光子・14 小玉博子・15 有村優子・16 西頭知子・17 一宮絵美・19 石川志保・23 小原めぐみ・24 春田陽子/8回) (共同) 生活機能援助論Ⅰ～Ⅷにおいて学習・演習してきた看護技術を、総合的に事例に活用し、実施できるようにする。具体的には、模擬事例の状態をアセスメント・判断し、どのような技術をどのように適用すべきかを検討して、実際にそれらを実施し、省察するという一連の過程を繰り返して体験することによって、実習で実施する看護技術力を高めることを目指す。</p>	共同 別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
				<p>家族看護論</p> <p>(概要) 家族成員の健康問題は、当事者のみならず全成員の身体・心理・社会面に大きな影響を及ぼし、それらがまた当事者の健康障害の回復を阻害する可能性もある。したがって、看護では、健康障害を有する人のみならずその人の家族全体を視野にいたした看護が必要となる。この科目では、家族看護の展開の仕方を理解するための諸理論と看護展開の実践について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (116 松本宏明/7回) 家族看護の前提となる、家族の捉え方、構造、機能、現代家族の状況と課題について理解するとともに、家族看護の展開を理解するための基礎となる、家族を理解するための理論、家族の変化を把握するための家族ストレス対処理論、家族に変化をもたらすための理論、家族療法の基本的な知識や理論などについて学ぶ。 (5 佐々木くみ子/8回) 家族看護の展開方法を基に、看護の対象への家族看護の実践について学ぶ。</p>	オムニバス方式 別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
				<p>看護展開基礎論</p> <p>(概要) この科目では、看護の対象となる人々の健康上の課題を解決するための効果的な看護展開法について学習し、それらを実習において活用する基礎を身につける。 (共同 (一部) /全15回) (2 中馬成子/7回) まず、自然科学的な課題の把握法、また人文科学的な課題把握法について探求し、両者を比較検討し、その特徴を理解する。さらに、看護実践法の1つとして広く活用されている看護過程の考え方や展開方法について理解する。そして、人の健康現象に関わる看護において、効果的に課題把握や解決を図るにはどうすればよいかを、グループ・全体討議し、人を対象とする看護展開の仕方について各自で洞察し、説明できるようになる。それらの学習成果を活用しつつ、対象との援助関係の発展とともに対象理解が初期把握(気づき)より深くなり、それに伴い健康課題に対する推論も深まり(解釈)、援助方法がより確実になり、それを実施し反応をとらえ(反応)、その全過程を振り返り検討(省察)する、という「気づき」「解釈」「反応」「省察」の4フェーズの螺旋的発展によって看護を展開する臨床判断モデルについて理解する。 (2 中馬成子・1 堤由美子・3 米増直美・4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・7 河口朝子・8 丹羽さよ子・12 武亜希子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・21 梅木由紀・25 平松明子/8回) (共同) 事例によって臨床判断モデルによる看護展開を実施し、実習において活用するための基礎を身につける。</p>	共同 (一部) 講義：14時間 演習：16時間

看護実践 コア科目	看護実践 コア科目	看護実践 コア科目	看護実践 コア科目	看護実践 コア科目	看護展開基礎実習	<p>(概要) 既修得の学修成果を基に、医療機関で入院生活を送る対象のケアニーズに気づき、ケアの必要性を根拠をもって判断(解釈)、実施(反応)し、その過程を省察することを通して、援助関係を発展させつつ、看護を発展させる具体的な看護展開の基礎を学ぶ。また、対象の健康状態の回復を促進する日常生活援助の重要性を理解し、より安全・安楽なケアを提供できるように学習、検討、考案しながら看護に取り組む姿勢を身につける。</p> <p>(15 有村優子・1 堤由美子・2 中馬成子・4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・7 河口朝子・11 中俣直美・12 武重希子・13 安藤光子・16 西頭知子・17 一宮絵美・18 野中弘美・19 石川志保・21 梅木由紀・22 持留里奈・24 春田陽子・25 平松明子) (共同)</p>	<p>共同</p> <p>DP3:学習成果評価の重要科目</p>
					健康増進看護総論Ⅰ : 地域保健	<p>(概要) 多様な発達段階や健康レベルの人々が暮らす地域において、家庭や地域を基盤に実施してきた公衆衛生看護実践及び訪問看護実践を概説し、人々の健康生活を支える看護職の役割機能と基盤となる考え方について総合的な理解を深める。健康課題を抱えつつ自己管理を継続している人々や、ケアを受けながら生活している人々が、その人らしく地域で暮らし続けることができるよう支えるための看護における基本的な考え方と看護活動方法の原則を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回)</p> <p>(9 塩満智子/6回)</p> <p>地域看護の理念と基本、役割、倫理、及び地域看護の対象(個人/家族、地区/小地域、地域組織、自治体等)の特性や捉え方について学ぶ。保健師活動の歴史的発展経緯を学ぶ。在宅療養を支える看護も含め、地域全体で健康を支える仕組みであるヘルスケアシステムにおける看護職の役割・機能について学ぶ。</p> <p>地域看護が対象とする人々の生活と健康課題の捉え方、地域看護活動の基本的考え方について学ぶ。地域全体の健康を支えるヘルスプロモーションの考え方、地域づくりの方法について学ぶ。</p> <p>(10 稲留直子/2回)</p> <p>国際保健の発展とWHOをはじめとする国際的な保健医療機関の役割・活動を踏まえ、国や地域間にみられる健康水準や保健医療サービスの現状から、地球規模の保健医療に関する課題の解決に向けたグローバル・ヘルスの概念について学ぶ。他国における「地域を基盤とした看護」の歴史や各国のヘルスケアシステムの現状についてグループディスカッションを交えて学ぶ。</p> <p>(14 小玉博子/5回)</p> <p>医療や看護、介護を受けながら地域で暮らす対象の生活を理解し、生活の場に応じた在宅看護の特徴と看護の役割について学ぶ。在宅療養者の健康生活を支えるヘルスケアシステムについて、在宅看護が提供される場とその拡大の背景にある現在の社会状況を理解し、療養者・家族を支える地域包括ケアシステム、在宅ケアを支える機関・システム・制度について学ぶ。</p> <p>(9 塩満智子・14 小玉博子/2回) (共同)</p> <p>看護の基本的考え方として、家族を単位とした援助について、事例演習により学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>共同(一部)</p> <p>講義:26時間</p> <p>演習:4時間</p> <p>別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)</p>
					健康増進看護総論Ⅱ : 成育保健	<p>(概要) この科目では、次世代のいのちをはぐくみ、まもり、つなぐ成育過程の健康を支える成育看護の理念と諸理論やライフサイクルからみた成育過程について学習する。ライフサイクルにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ペアレンティングについて概観するとともに、次世代成育過程の健康について、プレコンセプションを含む妊娠期・胎児期から性成熟期までの子どもの成長及び次世代を産み育てる人間の生殖機能や養育機能とそれら機能を発揮する親子や家族の健康について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 佐々木くみ子/7回)</p> <p>成育過程の健康を支える成育看護の理念と諸理論やライフサイクルからみた成育過程、親性の発達やペアレンティングについて理解し、新しい子どもを迎える家族の変化と調整について学ぶ。そして、成育過程における倫理的課題について考察する。</p> <p>また、成育保健に関連する諸統計から、ハイリスク妊娠の増加に伴う周産期医療の課題、ならびに成育過程にある子どもの健康課題や家族が抱える課題(子育ての孤立化、児童虐待等)について理解する。さらに成育過程における発達に関連する諸理論について理解を深め、成育過程における幼児期・学童期までの成長・発達と支援について学ぶ。</p> <p>(4 鳥越郁代/4回)</p> <p>成育過程におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツならびにそれに関連する倫理的課題について学ぶ。また、成育保健に関連する諸統計(特に母子保健統計)から、周産期における母子の健康課題について理解する。さらに成育過程を支える関連法規・施策について学ぶ。</p> <p>(16 西頭知子/4回)</p> <p>セクシュアリティの概念、その発達と多様性について理解し、セクシュアリティと成育看護の接点について学ぶ。また生殖過程の生理についての理解をもとに、成育過程における思春期・性成熟期の成長・発達と支援について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)</p>
					健康増進看護総論Ⅲ : 成人老年保健	<p>(概要) この科目では、ライフサイクルの成人期と老年期の各期発達段階の特徴を踏まえた健康的な状態とそれらを増進するための看護の役割を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 武重希子/8回)</p> <p>心身ともに成熟・成長し、社会を担う中心的役割を果たしている成人の健康的な状態とはどのようなものであるかについて探求的に学ぶ。そして成人の健康増進に必要な理論や看護の役割について学ぶ。</p> <p>(7 河口朝子/7回)</p> <p>ライフサイクルの中での老年期の身体・心理・社会的特性を理解し、高齢者の健康増進、あるいは生活上のリスクの最小化と可能性の最大化のために必要とされる理論や看護の役割について学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)</p>
					健康増進看護総論Ⅳ : 精神保健	<p>(概要) 精神的に健康な状態とはどのようなものであるのか、脳科学やさまざまな理論、治療的アプローチを通して多面的に&lt;こころ&gt;をとらえ、精神的な健康を支援することについて学ぶ。そして、ライフサイクルにおける発達課題と社会や環境との相互作用から生み出される精神保健上の問題、個人の精神的成長とよりよい社会の創造との繋がりについて理解を深め、課題解決のための看護の役割を考える。</p>	<p>別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)</p>

看護学科専門教育科目	看護実践能力育成科目	健康増進看護	看護	健康増進ケア論 I ：地域保健看護活動の基礎	<p>(概要) 地域で生活する個人/家族、生活基盤としての地区/小地域、地域の住民組織/地域組織への支援に必要な基本的知識・技術について学ぶ。地域の人々の健康やQOLの維持向上を目指して展開される個別支援の方法と、小集団や一定地域等のコミュニティ全体を対象とした地区活動の基本的な実践プロセスを学ぶ。個別支援の方法では、地域で暮らす人の生活全体を捉え、支援する方法、地区活動においては、顕在・潜在する健康課題を、地区踏査、地域の文化や価値観などを踏まえつつ、アセスメントし、地域の課題として整理する地区診断の方法を学ぶとともに、それらの課題への支援計画、及び活動評価を行う一連の地域看護活動の展開のプロセスを、地区活動の手段として行う健康教育の実践プロセスを通して学ぶ。海外における地域づくり活動の事例を通して、国や地域間の実情を踏まえた地区診断及び地区活動の方法を学ぶ。</p>	講義：8時間 演習：22時間
				健康増進ケア論 II ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	<p>(概要) 地域を基盤とした看護活動の基本的考え方及び方法論を中核に、具体的な活動展開の方法を、対象の発達段階に応じた活動から学ぶ。わが国の保健医療福祉制度と看護活動の歴史の変遷をふまえて、保健医療福祉サービスシステムのサブシステムとして機能する看護職の役割について理解する。すべての人々が住み慣れた地域でQOLの高い暮らしの継続を目指し、社会的変化を把握しながら、多様な専門職や地域住民と協働し、地域診断に基づいた地域の健康水準を高める事業化、施策化、社会資源の開発、システム化を実践していく基本的考え方と方法を学ぶ。住民の主体的な健康づくりを支え、健康な地域を育む地域づくり活動について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (10 稲留直子/6回)</p> <p>発達段階に応じた活動として主に成育期の地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を学ぶ。 (9 塩満智子/6回)</p> <p>発達段階に応じた活動として主に成人期・老年期の地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を学ぶ。 (9 塩満智子・10 稲留直子/3回) (共同)</p> <p>住民と協働して地域づくりを推進する方法について演習を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義：24時間 演習：6時間
				健康増進ケア論 III ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	<p>(概要) 地域を基盤とした看護活動の基本的考え方及び方法論を中核に、具体的な活動展開の方法を、対象の健康課題の特性に応じた活動から学ぶ。わが国の保健医療福祉介護制度と看護活動の歴史の変遷をふまえて、保健医療福祉介護サービスシステムのサブシステムとして機能する看護職の役割について理解する。すべての人々が住み慣れた地域でQOLの高い暮らしの継続を目指し、社会的変化を把握しながら、多様な専門職や地域住民と協働し、地域診断に基づいた地域の健康水準を高める事業化、施策化、社会資源の開発、システム化を実践していく基本的考え方と方法を学ぶ。また、在日外国人の背景や健康課題を理解し、異文化・多文化を理解することの重要性や感染症、化学汚染、放射能汚染など、国境を越えて人々の健康に重大な影響を及ぼす健康危機における看護活動について学ぶ。演習を通して、高齢者だけでなく障害者も含めた地域包括ケアシステムの有り様を描き、ヘルスケアシステムを整える看護職の役割について検討し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (10 稲留直子/5回)</p> <p>健康課題 (精神障害者・健康危機管理) の特性に応じた地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を理解する。 (3 米増直美/4回)</p> <p>健康課題 (難病) の特性に応じた地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を理解する。 (9 塩満智子/3回)</p> <p>健康課題 (感染症) の特性に応じた地域保健活動の実践について、ヘルスニーズの現状に対し、サービス提供システムやその他の社会資源がどのように地域看護活動に活かされているのか、また地域看護活動の根拠となる関連法規を理解する。 (3 米増直美・9 塩満智子・10 稲留直子/3回) (共同)</p> <p>地域看護の対象である様々な場や個人・集団レベル、ライフサイクルにある人々を包括的に支援する地域包括ケアシステムについて、演習を通して検討する。</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義：24時間 演習：6時間
				健康増進ケア論 IV ：学校・産業保健活動	<p>(概要) 地域を基盤とした看護活動の基本的考え方及び方法論を中核に、具体的な活動展開の方法を、活動場所の特性に応じた看護実践から学ぶ。学校・産業という場の特性を理解し、それぞれの場における看護の理念、活動展開の特性、職業倫理について学び、それぞれの場での活動を行う看護の役割について探求的に理解する。また、地域特性に応じた活動として、離島・へき地における活動、都市部における活動、海外における保健師活動について学び、地域特性に応じて活動を構築していく方法を理解する。総括では、海外の保健活動も含めて地域を基盤とした看護の考え方をディスカッションにより確認する。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (9 塩満智子/6回)</p> <p>産業保健の意義と目的、労働衛生に関する法規と管理体制について理解する。そして、現代の産業保健における課題である生活習慣病の予防、メンタルヘルス関連障害の予防、過労防止、職業性疾病予防など、職場における多様な健康支援活動について学ぶ。</p> <p>また、産業保健師をゲストスピーカーとして招き、地域特性に応じた活動：都市部における保健師活動産業保健の実践について学ぶ。 (10 稲留直子/8回)</p> <p>学校保健の場の特性、意義と目的、学校保健関連法規、学習指導要領、養護教諭の役割を理解する。そして、学校保健統計の分析による児童・生徒の健康状態把握の仕方、事故予防について理解するとともに、現代の学校保健における不登校や虐待などの諸課題への対策等について考察する。</p> <p>また、養護教諭をゲストスピーカーとして招き、学校保健活動の実践について学ぶ。</p> <p>さらに、地域特性に応じた活動として、離島・へき地における保健師活動、海外における保健師活動についても学ぶ。 (9 塩満智子・10 稲留直子/1回) (共同)</p> <p>学習の統合演習</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義：28時間 演習：2時間
				健康増進ケア論 実習	<p>(概要) 公衆衛生看護学に関する既修得の学修内容を統合し、保健所、保健センターをはじめとする地域で暮らす様々な対象・健康レベルにある人々への看護活動を理解し、看護実践能力の基盤を養う。具体的には、地域ケアシステムについて理解し、地域看護活動を実践するための基本的技術力を養う。同時に、健康の保持・増進に向けて、地域診断に基づき、地域のヘルスニーズを充たすための地域看護の専門的活動方法を理解する。 (3 米増直美・9 塩満智子・10 稲留直子) (共同)</p>	共同 DP4~7:学習成果 評価の重要科目

看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	看護実践能力育成科目 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻	健康回復看護 健康回復看護 健康回復看護 健康回復看護 健康回復看護	健康回復看護総論	<p>(概要) この科目では、健康障害の治療を行う医療機関がどのような成り立ちであるかの理解を踏まえ、人が発病し健康障害を有するようになるという体験がどのようなものであるかを理解し、医療機関においてどのような医療、看護を提供していくかを検討できるようにする。 (オムニバス方式/全15回) (78 田中康博/5回)</p> <p>健康障害の治療を行う医療機関とはどのようなところかを、その役割、組織、機能、経営、法令・制度、職種、施設等を通して、全体的に理解し、医療を提供する仕組みについて学ぶ。 (13 安藤光子/5回)</p> <p>ライフサイクルの各段階において、人が発病し健康障害を有するようになるという体験がどのようなものであるかを探求し、各発達段階において医療機関で入院・外来治療を受けることがどのような影響を及ぼすかを検討・整理し理解できるようにする。 (14 小玉博子/5回)</p> <p>医療機関を受診・入院治療している期間の看護、医療機関から自宅や地域療養施設等に移行する際の地域医療連携における看護、及びチーム医療の在り方について検討し、医療機関における看護の役割を理解する。</p>	オムニバス方式
			健康回復過程論Ⅰ ：急性・回復期・治療過程における看護	<p>(概要) この科目では、健康障害の急性期と回復期、治療過程にある対象の心身の状態を理解し、回復を促すための看護について学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (6 山田巧/5回)</p> <p>様々な要因による生命の危機状態、救急医療を必要とする状態にある人々の心身の特徴を踏まえた回復を促す看護展開の実践について学ぶ。 (11 中俣直美/5回)</p> <p>治療過程にある人への、治療に伴う身体侵襲からの回復促進、回復阻害要因の排除による安全確保、日常生活機能の保護・維持、ボディイメージの変化への支援などについて学ぶ。また、新たな治療法や先端医療に対する看護について検討する。 (6 山田巧・11 中俣直美・12 武亜希子・19 石川志保・21 梅木由紀・22 持留里奈/5回) (共同)</p> <p>健康回復過程論Ⅰの学習成果をもとに、ライフサイクル各期における急性・回復期・治療過程の特徴はどのようなものかを比較・整理・検討後、全体討議し、明確化する。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義：20時間 演習：10時間
			健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護	<p>(概要) この科目では、健康障害のリハビリ期と慢性期の状態にある対象の心身の状態を理解し、回復を促すための看護について学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (8 丹羽さよ子/5回)</p> <p>健康障害によりリハビリを必要とするようになった対象の心身の状態や生活に及ぼす影響を把握し、急性期・回復期・維持期のリハビリテーションの看護の実践を学ぶ。 (2 中馬成子/5回)</p> <p>慢性病を有することが対象の心身と生活に及ぼす影響を理解し、慢性病との共存を支える看護の展開の仕方について学ぶ。 (8 丹羽さよ子・2 中馬成子・14 小玉博子・18 野中弘美・20 久富木有加・21 梅木由紀・26 水迫友和/5回) (共同)</p> <p>健康回復過程論Ⅱの学習成果をもとに、ライフサイクル各期におけるリハビリ期・慢性期の特徴はどのようなものかを比較・整理・検討後、全体討議し、明確化する。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義：20時間 演習：10時間
			健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	<p>(概要) この科目では、人生最期のときを支える看護について学ぶ。また外来の場における看護についても学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (12 武亜希子/5回)</p> <p>人生の最期のときにおける医療の動向やケアの考え方などについて探求・検討し、自身の死生観を振りかえり、比較・検討する。そして、最期のときを過ごしている対象がどのような体験をしているかを事例をとおして理解し、それらを基に人生の最期のときを支える看護の在り方について学ぶ。 (7 河口朝子/5回)</p> <p>外来医療の現状とそのなかでの看護者の果たすべき役割を検討・理解する。そして、初診や再診、治療受診など、様々な背景を抱えて外来受診している対象が、外来においてどのような体験をしながら時間を過ごしているかを理解し、外来における看護の役割について学ぶ。 (12 武亜希子・7 河口朝子・13 安藤光子・20 久富木有加・24 春田陽子・25 平松明子/5回) (共同)</p> <p>健康回復過程論Ⅲの学習成果をもとに、ライフサイクル各期における人生の最期のとき・外来通院期の看護の特徴はどのようなものかを比較・整理・検討後、全体討議し、明確化する。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義：20時間 演習：10時間
			成育健康回復ケア概論	<p>(概要) 健康増進看護総論(成育保健)で学習した成育の概念の理解を基にして、成育医療の概念とその背景、そして成育看護の対象、特徴及び看護の基盤となる考え方について学ぶ。また、成育看護を構成する概念として生涯にわたるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する倫理的課題ならびに支援について学ぶ。さらに、成育看護の対象である子どもの発達的特点をふまえた上で、子どもの病気が障がい子どもと家族に与える影響と看護について理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (4 鳥越郁代/7回)</p> <p>成育医療の概念とその背景、そして成育看護の対象、特徴及び看護の基盤となる考え方について学ぶ。また成育看護を構成する概念として生涯にわたるリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する倫理的課題ならびに支援についてグループワークを通して、探求的に学ぶ。 (5 佐々木くみ子/6回)</p> <p>遺伝のメカニズム理解をもとに、先天的な健康問題をもつ子どもとその家族の看護について学ぶ。また周産期の喪失体験の特徴について理解し、子どもをなくした家族への看護、虐待を受けている子どもと家族への看護について理解を深める。さらに、乳幼児・学童期における健康課題と子どもとその家族の看護について学ぶ。 (16 西頭知子/2回)</p> <p>思春期・成熟期にある対象者の健康課題について理解し、ヘルスプロモーションの視点から支援のあり方について学ぶ。</p>	オムニバス方式

看護学科 専門教育科目	看護実践能力 育成科目	健康回復看護	看護	成人老年健康回復ケア概論	<p>(概要) 健康障害を有する成人老年看護の対象の発病体験に伴う主観を共有、尊重する関係性を基に、より健康的でその人らしい暮らしを送れるようにするための看護の在り方について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (6 山田巧/8回) 成人看護の特徴と理念、倫理、成人医療に関連する法規と制度、成人を取り巻く社会の現状の理解を基にして、健康障害を有する成人とその家族への看護の特徴と役割、関係性を築くための原則、看護展開の基本について学ぶ。 (7 河口朝子/7回) 老年看護の特徴と理念、倫理、老年医療に関連する法規と制度、高齢者を取り巻く社会の現状の理解を基にして、健康障害を有する高齢者の看護の特徴と役割、関係性を築くための原則、看護展開の基本について学ぶ。</p>	オムニバス方式
				精神・在宅健康回復ケア概論	<p>(概要) 精神の健康障害を有する対象、健康障害を抱えながら地域で療養生活を送る対象の発病体験に伴う主観を共有、尊重する関係性を基に、より健康的でその人らしい暮らしを送れるようにするための看護の在り方について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (1 堤由美子/8回) 精神障害者の処遇の歴史を踏まえた精神看護の特徴と理念、倫理、精神医療に関連する法規と制度、精神障害者を取り巻く社会の現状の理解を基にして、精神の健康障害を有する対象とその家族への看護の特徴と役割、関係性を築くための原則、看護展開の基本について学ぶ。 (8 丹羽さよ子/7回) 在宅看護の特徴と理念、倫理、自立・自律支援、家族支援、日常生活と災害時の安全管理、関係性を築くための原則、看護展開の基本について学ぶ。</p>	オムニバス方式
				成人健康回復ケア論Ⅰ	<p>(概要) 成人過程の周産期(妊娠・分娩・産褥・新生児期)、乳幼児・学童・思春期における対象者の心理・身体・社会的特徴を理解し、それらの過程を適切に経過できるようにするための看護実践の仕方を学ぶ。また成人過程にある対象者の健康課題を理解し、それを解決するための専門的知識を学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (4 鳥越郁代/8回) 妊娠・分娩・産褥期のアセスメントのポイントを理解する。また妊娠・分娩・産褥期に起こりうる正常からの逸脱について理解し、その原因、母児に及ぼす影響、治療・看護について学ぶ。 さらに成人過程にある子どもの健康課題に応じた具体的なケア、中でも慢性疾患をもつ子どもと家族への看護について学ぶ。 (5 佐々木くみ子/5回) 新生児期のアセスメントのポイントを理解する。また新生児期に起こりうる正常からの逸脱について理解し、その原因、新生児に及ぼす影響、治療・看護について学ぶ。また先天性心疾患や心身障害を抱える子ども、そして終末期にある子どもとその家族への看護について、子どもの権利を尊重する視点や社会保障制度を踏まえながら理解を深める。 (16 西頭知子・21 梅木由紀/2回) (共同) 演習事例を通し、成人過程にある子どもの健康課題に応じた具体的なケア、中でも発熱や呼吸困難、けいれんなど急性症状のある子どもと家族への看護について学ぶ。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義: 26時間 演習: 4時間
				成人健康回復ケア論Ⅱ	<p>(概要) 成人過程にある対象者(家族を含む)のヘルスアセスメントを行い、対象者の抱える健康課題を特定し、看護の目標設定や計画立案を通して、看護における課題解決過程を学ぶ。成人経過をたどる演習事例を用いて、ヘルスプロモーションの視点に基づく看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (16 西頭知子/1回) オリエンテーション・演習事例の紹介 (16 西頭知子/4回) 正常な経過をたどる妊産婦のアセスメントに必要な技術を習得する。また正常な演習事例(妊婦・産婦)を用いて、ヘルスプロモーションの視点に基づく看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。 (4 鳥越郁代/2回) 帝王切開分娩の事例を通して、帝王切開を受ける妊産婦の看護について理解を深める。 (5 佐々木くみ子・16 西頭知子/2回) (共同) 正常な経過をたどる褥婦・新生児のアセスメントに必要な技術を習得する。また演習事例(褥婦・新生児)を用いて、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。 (5 佐々木くみ子・4 鳥越郁代・16 西頭知子・21 梅木由紀/6回) (共同) 検査・処置を受ける子どもの安全、安楽を考慮した看護技術を習得する。また、健康課題を有する子どもの演習事例を通して、子どもの発達レベル・健康レベルを踏まえた看護を模擬展開し、成人過程にある子どもと家族への看護を効果的に展開する思考の仕方を身につける。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
				成人健康回復ケア論	<p>(概要) 成人期において、急激な健康破綻により生命の危機状態にある人、手術による大きな侵襲を受けている人、慢性の健康障害と共に生きている人の、病態や治療、家族や生活への影響を理解し、回復を促進したり、QOLを高めるための看護の展開の仕方を学ぶ。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (6 山田巧/5回) 生命の危機状態にある人、手術により大きな侵襲を受けている成人期の対象の生命維持や合併症予防、系統的観察、アセスメントに基づく具体的なケアや家族ケアについて、生体シュミレーター、プロジェクションマッピング等を併用して、実践的に学ぶ。 (12 武亜希子/5回) 慢性病を有する成人期の対象とその家族の暮らしぶりを把握し、対象が健康状態をセルフマネジメントしながら、よりその人らしい暮らしを営めるようになるための具体的なケアや家族ケアについて実践的に学ぶ。 (6 山田巧・11 中俣直美・12 武亜希子・22 持留里奈・23 小原めぐみ・24 春田陽子・25 平松明子/5回) (共同) 演習事例を通して、健康障害を有する対象とその家族の状況に応じて、健康レベルや生活状況を踏まえた看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。</p>	オムニバス方式 共同(一部) 講義: 20時間 演習: 10時間

看護学科専門教育科目	看護実践能力育成科目	健康回復看護	看護	老年健康回復ケア論	<p>(概要) 高齢者の特性を踏まえ、老年期に起こりやすい健康障害と加齢に伴う機能低下が生活に及ぼす影響を多角的に検討し、その有する力を把握、活用しながら、その人らしく生活することを支える看護の展開の仕方を学ぶ。また、高齢者を支える社会保障制度、地域包括ケアシステムを活用した、チームアプローチの必要性を学ぶ。</p> <p>(共同 (一部) /全15回) (7 河口朝子/10回)</p> <p>健康障害を有する高齢者の心理・身体・社会的特性を踏まえた総合的なヘルスアセスメントにより、その人らしく生活できるようにその生活機能を整えるための看護について事例を通して実践的に学ぶ。</p> <p>また、高齢者の健康危機や特徴的な健康障害とその治療法について理解し、それらが生活に及ぼす影響を総合的にアセスメントし、社会保障制度や地域包括ケアシステムを活用しながら、看護を実践する方法について、事例を通して理解する。</p> <p>(7 河口朝子・18 野中弘美・20 久富木有加・22 持留里奈・23 小原めぐみ・24 春田陽子・26 水迫友和/5回) (共同)</p> <p>演習事例を通して、健康障害を有する高齢者とその家族の状況に応じて、健康レベルや生活状況を踏まえた看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。</p>	共同 (一部) 講義: 20時間 演習: 10時間
				精神健康回復ケア論	<p>(概要) 精神的な不健康状態がどのようにして生じるのかを踏まえて、精神障害を有する対象への看護実践の構造を明確化し、対象がその人らしく地域で生活できるようになるための健康回復のための看護展開の仕方を学ぶ。</p> <p>(共同 (一部) /全15回) (13 安藤光子/10回)</p> <p>精神障害がどのように発生するのか、また対象やその家族がその過程においてどのような体験をしているのかを示す看護実践の構造について学び、回復過程における看護展開法を理解する。また、代表的な精神的健康障害とその治療法について理解し、それらが生活に及ぼす影響や対象の有する力を総合的にアセスメントし、社会制度や地域包括ケアシステムを活用しながら、リハビリを旨とした具体的な看護実践方法について、事例を通して理解する。</p> <p>さらに、精神障害を有する対象が、地域においてその人らしく暮らしていけるように支援する在宅看護展開の実際を学ぶ。</p> <p>(13 安藤光子・1 堤由美子・19 石川志保・22 持留里奈・24 春田陽子・25 平松明子/5回) (共同)</p> <p>演習事例を通して、精神的な健康障害を有する対象とその家族の状況に応じて、健康レベルを踏まえた看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。</p>	共同 (一部) 講義: 20時間 演習: 10時間
				在宅健康回復ケア論	<p>(概要) 健康障害により医療や看護、介護が必要になっても、住み慣れた地域でその人らしく暮らしていけるように、在宅での療養生活を支援する看護展開の仕方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (8 丹羽さよ子/4回)</p> <p>生活の場に訪問する際に求められるマナーや技術、信頼関係づくり、情報収集の仕方など、訪問看護の特徴について理解する。また、家族への看護について学ぶ。</p> <p>さらに、在宅療養において生じやすい機能低下を予防し、残存機能を維持・増進させるためのリハビリテーション看護の展開の仕方を学ぶ。</p> <p>(14 小玉博子/6回)</p> <p>在宅療養者とその家族を対象とする、在宅療養生活を支える看護、病期に応じた看護、特徴的な健康障害を有する療養者への看護、医療管理を必要とする人への看護における、心身の健康状態のアセスメント方法、生活機能を整える援助、医療管理への支援について、社会保障制度や地域包括ケアシステムを活用し、その人らしい暮らしが送れるようにするための看護をどのようにして展開するのかを、事例を通して学ぶ。</p> <p>(14 小玉博子・8 丹羽さよ子・18 野中弘美・20 久富木有加・26 水迫友和/5回) (共同)</p> <p>演習事例を通して、健康障害を有する対象とその家族の状況に応じて、健康レベルや生活状況を踏まえた看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義: 20時間 演習: 10時間  別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
				健康回復看護総論実習	<p>(概要) 本実習では健康障害(またはその疑い)をきたし、医療機関を受診したり、入院生活を送る対象との関わりを通して、健康障害がこれまでの日々の暮らしにどのような影響を及ぼすのかを理解する。また、入院・外来治療を受ける対象が描くこれからの暮らしと医療や看護に期待することを把握し、看護の果たすべき役割を理解できる。</p> <p>(15 有村優子・1 堤由美子・2 中馬成子・4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・7 河口朝子・8 丹羽さよ子・13 安藤光子・17 一宮絵美・19 石川志保・20 久富木有加) (共同)</p>	共同
				成育健康回復ケア論実習 I	<p>(概要) 成育看護学に関する既修得の学修内容を基に、地域で暮らす子ども・子育て期にある人々の多様な健康レベルに応じたその人らしい生活を送る上で抱える健康課題に対し提供される、保健・医療・福祉・教育等の連携協働による包括的支援を実習を通して理解するとともに、支援における看護の役割を考察することにより、地域で暮らす子ども・子育て期にある人々の特性を踏まえた看護を提供するための基本的能力を養う。</p> <p>地域で暮らす子ども・子育て期にある対象者の様々な健康レベルと対象者が抱える多様な健康課題に対する多職種連携協働による対象中心の包括的支援について、妊娠期から子ども・子育て期までの切れ目ない支援の場として保健・医療・福祉・教育機関等での実習を行う。</p> <p>(5 佐々木くみ子・4 鳥越郁代・16 西頭知子・21 梅木由紀) (共同)</p>	共同  DP4～7:学習成果評価の重要科目

看護学 専攻科目 看護実践能力育成科目 看護学 専門科目	健康回復看護	成人健康回復ケア論実習Ⅱ	<p>(概要) 成育看護学に関する既修得の学修内容を基に、成育過程の周産期(妊娠・分娩・産褥・新生児期)、乳幼児・学童・思春期における対象者の成長・発達の特徴を踏まえ、あらゆる健康レベルにいる対象者とその家族について理解を深め、対象者の健康課題と健康レベルに応じた看護の実践を学ぶ。具体的には、医療施設で入院あるいは外来通院している対象者の特性を理解し、周産期の母子を対象としたウェルネスの視点での看護の展開や、成育過程にある健康課題を有する対象者の看護の展開を通して、成育看護に必要な基礎的な看護実践能力を修得する。また対象者や家族が直面する成育医療における様々な治療やケアの選択場面の現状を理解し、意思決定支援における看護職の役割について考察することができる。さらに、成育過程にある様々な健康課題をもつ対象者への看護実践を通し、成育看護の対象者とその家族を取り巻く保健医療チーム(施設内外、社会資源を含む)の役割について理解するとともに、次世代成育過程の健康について、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)視点から考察することができる。</p> <p>(4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・16 西頭知子・21 梅木由紀) (共同)</p>	共同 DP4~7:学習成果評価の重要科目
		成人健康回復ケア論実習	<p>(概要) 成人看護学に関する既修得内容を活用し、成人看護の対象と、医療機関において交流することを通して対象を尊重した援助関係を構築し、健康障害の種類と回復過程に応じた看護の展開の実践を学ぶ。</p> <p>具体的には、成人期にある人の特性を理解し、対象が日常生活において自身の健康管理をどのように行っているかを理解したうえで、健康障害が生じ、入院治療を余儀なくされた人を受け持ち、必要な看護を実践する。また治療を終えた患者・家族の生活の再構築に向けて、チームで支援する看護の実践を学ぶ。</p> <p>(6 山田巧・11 中俣直美・12 武重希子・22 持留里奈) (共同)</p>	共同 DP4~7:学習成果評価の重要科目
		老年健康回復ケア論実習	<p>(概要) 老年看護学に関する既修得内容を活用し、老年看護の対象と、医療機関、グループホーム等において交流することを通して対象を尊重した援助関係を構築し、健康障害の種類と回復過程に応じた看護の展開の実践を学ぶ。</p> <p>具体的には、高齢者の特性を理解し、健康を維持・回復・増進し、その人らしく暮らしているように思える受け止め支援する看護の実践に取り組む。自立した生活の維持・拡大、個人や家族が描くこれからの生活に向けて、チームで支援する看護の実践を学ぶ。</p> <p>(7 河口朝子・18 野中弘美・23 小原めぐみ) (共同)</p>	共同 DP4~7:学習成果評価の重要科目
		精神健康回復ケア論実習	<p>(概要) 精神看護学に関する既修得内容を活用し、精神看護の対象の特性を理解し、在宅、医療機関、就労施設等における交流を通して援助関係を構築し、精神の健康障害の種類と療養過程に応じた看護の展開の実践を学ぶ。</p> <p>具体的には、対象から信頼される関係を形成するために求められる看護者としての基本的態度を修得するために、対象との交流場面における相互作用過程を自己洞察し、それらの成果を関りに生かすことの必要性を実践に実施して理解する。また、対象の精神障害と回復過程を理解し、対象の言動を精神障害やその治療法、生活環境、入院環境などから総合的に解釈し、その意味を理解できるようにする。そしてその意味を踏まえながら対象の有するストレスと健康障害から生じる生活面への影響を、心理・社会・身体的側面から総合的にアセスメントし、対象が望む生活をその人らしく送れるようになるためのケア計画を対象と共に計画実施、評価するという一連の看護の展開の仕方について学ぶ。また、精神障害における各種治療法、精神保健福祉法に基づく患者処遇、精神科におけるチーム医療の実践を体験することによって、それらにおいて看護職の果たすべき役割について理解するとともに、精神医療の現状を知り、今後の在り方について考察することができる。</p> <p>(1 堤由美子・13 安藤光子・24 春田陽子・25 平松明子) (共同)</p>	共同 DP4~7:学習成果評価の重要科目
		在宅健康回復ケア論実習	<p>(概要) 在宅看護学に関する既修得内容を活用し、在宅看護の対象の特性を理解し、自宅や入所施設等において交流することを通して対象を尊重した援助関係を構築し、健康障害の種類と回復過程に応じた看護の展開の実践を学ぶ。</p> <p>具体的には、在宅で生活する様々な健康レベルにある人々や家族に対して、QOLの維持・向上、生き生きとした日々の暮らしの実現に向けた看護について学ぶ。在宅看護を支える制度と関係者の組織を超えた多職種連携を通して、ケアマネジメント及び在宅ケアの実践について学ぶ。</p> <p>(8 丹羽さよ子・14 小玉博子・20 久富木有加・26 水迫友和) (共同)</p>	共同 DP4~7:学習成果評価の重要科目
		長期療養生活看護総論	<p>(概要) この科目では、難病や身体障害、治療が長期におよぶ等により、長期療養生活支援を要するようになった対象が、どのような体験をしているのかを理解し、対象のストレンスを活用したその人らしい暮らしが営めるようになるための看護実践に必要な理念や理論、技術、社会保障制度など、について学ぶ。</p> <p>また、ライフサイクルの各段階における、長期療養支援を要する対象の生活体験はどのような特徴を有するのかを探求・検討し、看護実践においてその成果を活用できるように整理することができる。</p>	別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
		長期療養生活ケア論	<p>(概要) この科目では、難病や身体障害、治療が長期におよぶ等により、長期療養生活支援を要するようになった対象とその家族への看護の展開法について学ぶ。</p> <p>(共同(一部)/全15回) (11 中俣直美/10回)</p> <p>長期療養生活者とその家族を対象に、生活状況や健康状態、生活機能の状態、医療管理の状態、ケアニーズなどを、総合的にアセスメントし、社会保障制度や地域包括ケアシステム、社会資源などを活用しつつ、その人らしい療養生活が送れるようになるための看護をどのようにして展開するのかを、事例を通して学ぶ。</p> <p>(11 中俣直美・12 武重希子・22 持留里奈・23 小原めぐみ・24 春田陽子/5回) (共同)</p> <p>演習事例を通して、長期療養支援を要する対象とその家族の状況に応じて、支援状況や生活状況を踏まえた看護を模擬展開し、看護を効果的に実施する思考の仕方を身につける。</p>	共同(一部) 講義:20時間 演習:10時間 別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
長期療養生活ケア論実習	<p>(概要) 全教育課程における学修成果を統合、活用し、長期にわたる治療等が必要な疾病を抱えた対象の健康課題の解決を手助け、支援する看護の実践について学ぶ。</p> <p>日々を豊かに暮らそうと願う人や家族の思いを実現するために、多職種と連携し生活機能の回復・維持とQOLの向上のための取り組みの実践、また長期療養者の生活を組織として支える看護管理の在り方について学ぶ。そして、それらの看護体験を通して、一年次からはぐんできた自らの看護観を省察し、自身の成長過程を説明できるようになる。</p> <p>(11 中俣直美・2 中馬成子・15 有村優子・17 一宮絵美・19 石川志保・20 久富木有加・23 小原めぐみ) (共同)</p>	共同 DP11~13:総合実践能力評価の重要科目		



看護学科専門教育科目	看護実践能力育成科目	総合科目	看護	健康増進ケア論 発展実習	(概要) 健康と職業の両立を支える産業保健活動の実際と、労働者の健康の維持増進のための看護支援の方法について学ぶ。生徒の発達段階に応じたセルフケア能力を高める保健活動の実際について学ぶ。 (3 米増直美・9 塩満智子・10 稲留直子) (共同)	共同 DP9・10:総合実践能力評価の重要科目
				看護管理論	(概要) 看護専門職に必要な管理論や組織論、組織行動論に関する基本的な知識や技術を習得することを目的とする。それらを学ぶことで、保健・医療・福祉の場で看護専門職が力を発揮していくための考え方を養う。 (オムニバス方式/全15回) (7 河口朝子/8回) 看護職がよりよい実践をするためには、セルフマネジメントやキャリアマネジメントを活かした看護実践が看護組織に貢献することを理解する。また、看護管理の概念と質の高い看護サービスを安全にかつ効果的に提供するしくみと機能、マネジメントに必要な基本的知識、臨床における看護マネジメントの実際について学習する。 (3 米増直美/7回) 地域の健康水準を高めるための地域看護管理の目的・構造・機能、専門的自律と人材育成の基本について学ぶ。地域看護活動が展開されている地域(自治体、産業、学校等)のシステムを中心に、様々なシステムの学習をおして看護システムを発展、変革させる基本的な知識や技術の習得をめざす。	オムニバス方式 別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
				看護統合演習	(概要) 各領域の看護において必要となる理論・知識を統合し、様々な状態や状況にある対象の状態をアセスメントし、必要とされる看護を判断できるようにして、卒業後の看護実践に必要な基本的な知識と判断力を盤石なものにする。 (オムニバス方式/全15回) (15 有村優子/4回) 専門基礎科目・生活機能援助論の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (2 中馬成子/1回) 基礎看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (4 鳥越郁代/1回) 成育看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む①。 (5 佐々木くみ子/1回) 成育看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む②。 (6 山田巧/1回) 成人看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (7 河口朝子/1回) 老年看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (1 堤由美子/1回) 精神看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (8 丹羽さよ子/1回) 在宅看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (11 中俣直美/1回) 長期療養生活看護の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。 (3 米増直美/3回) 公衆衛生看護学の知識を活用し、課題場面の解決法を検討し、実践的な判断力を育む。	オムニバス方式
				地域包括チーム ケア論	(概要) 地域包括ケアを、人生の最期までその人の望む場で、その人らしく暮らし続けることができる実効あるものにするためには、多機関及び多職種が切れ目のない連携を図り、保健・医療・福祉サービスをチームケアとして提供できるようになる必要がある。この科目では、地域包括ケアの現状と課題、地域包括ケアを支える専門職とチームケアの展開の実際について学び、地域包括ケアチームにおける看護職の役割を理解し、その一員としての自覚を醸成する。 (オムニバス方式・共同(一部)/全15回) (8 丹羽さよ子/2回) 地域包括ケアの現状と課題について、多職種連携の在り方について理解する。 (14 小玉博子/4回) 地域包括ケアにおいて医療機関の果たす役割、医療機関における看護職の役割と現状、地域連携室の活動の実際について学ぶ。 また、訪問看護師の果たす役割と現状、連携の実際について学ぶ。 (10 稲留直子/2回) 地域包括支援センターの果たす役割と、そこで求められる保健師の役割と現状、連携の実際について学ぶ。また、地域包括ケアにおいて連携する多職種の活動の実際を理解する。 (18 野中弘美/5回) 演習により、以下のゲストスピーカーから地域活動の実際を聴講し、地域における包括ケアにおいて看護者としてどのような役割を果たしていくべきかを具体的に検討し、理解できるようにする。 (ゲストスピーカー: 社会福祉士) (ゲストスピーカー: 主任介護支援専門員) (ゲストスピーカー: 町内会長に着任されている方) (ゲストスピーカー: 民生委員に着任されている方) (ゲストスピーカー: 地域で自主的な活動を主催している方) (8 丹羽さよ子・10 稲留直子・11 中俣直美・14 小玉博子・18 野中弘美・20 久富木有加・24 春田陽子・26 水迫友和/2回) (共同) 鹿児島国際大学の学部横断科目として、経済・福祉社会・国際文化学部において専門科目を学んだ学生と共に、演習を行う。演習事例を通して、地域包括ケアを要する対象に、多職種がどのように関わればよいのかを検討し、各自の目指す職種においてチームとしてどのようにケアするかを模擬展開し、効果的なチームの連携の取り方を明確にし、学ぶ。	オムニバス方式 共同(一部) 講義:16時間 演習:14時間 別表1、別表3複数教授科目(シラバス添付)
				学部横断科目		

看護学科専門教育科目	看護実践能力育成科目	総合科目 発展	学部横断科目	災害支援論	<p>(概要) この科目では、災害看護の基礎知識、災害サイクルや活動の場及び被災者特性に応じた看護、こころのケアについて理解し、災害看護の実践について学ぶ。 (オムニバス方式・共同 (一部) /全15回) (13 安藤光子/4回) 災害看護の定義、災害と倫理、災害初期から中長期における看護活動について学ぶ。 また、被災者と支援者の心理について理解し、その援助の仕方について学ぶ。 (103 内山美香/2回) 災害の種類、国の政策と法律、及び危機管理、災害看護に必要な医療・看護技術について学ぶ。 (55 林岳宏/1回) 災害派遣精神医療チーム (DPAT) の活動の実践について学ぶ。 (16 西頭知子/1回) 配慮を必要とする乳幼児・子ども・妊産婦への支援と看護について学ぶ。 (2 中馬成子/5回) 配慮を必要とする高齢者・継続的な治療が必要な人などへの支援と看護について学ぶ。 また、演習により、実際に災害支援や被災体験のある人たちの体験の語りを聴講し、災害支援において看護職が果たすべき役割を検討し、理解できるようにする。 (ゲストスピーカー：災害派遣医療チームにおける医療活動の実践) (ゲストスピーカー：災害派遣医療チームにおける看護活動の実践) (ゲストスピーカー：災害支援活動経験のある保健師) (ゲストスピーカー：被災体験のある方) (13 安藤光子・2 中馬成子・3 米増直美・9 塩満智子・12 武重希子・16 西頭知子・21 梅木由紀・25 平松明子/2回) (共同) 鹿児島国際大学の学部横断科目として、経済・福祉社会・国際文化学部において専門科目を学んだ学生と共に、演習を行う。具体的には、鹿児島市危機管理局危機管理課の「鹿児島市の防災及び危機管理」の講演をもとに、各自の目指す職種において果たすべき役割を検討、明確化し、それらを組織的に展開する方策を討議、検討し、提言としてまとめることができる。</p>	オムニバス方式 共同 (一部) 講義：16時間 演習：14時間  別表1、別表3複数教授科目 (シラバス添付)
				暮らし探索フィールドワーク	<p>(概要) この科目では、新入生ゼミナールでフィールドワークした地域を訪問し、そこで暮らす高齢者と、老年保健や援助関係論などで学んだ専門知識と技術を活用しながら、継続して関り、日々の暮らしの様子、地域で暮らす楽しみや喜び、老化の影響による暮らしにくさと生活の中での工夫、これからの生活への思いなどについての語りを、敬意と関心をもって傾聴する。そしてそれらの成果を、検討・整理し、全体発表を通して、地域で生活する高齢者の多様な暮らしの有様を理解するとともに、高齢者のQOLについての各自の視点や考え方を深め、看護の対象を理解する。 (7 河口朝子・9 塩満智子・10 稻留直子・13 安藤光子・14 小玉博子・16 西頭知子・18 野中弘美・20 久富木有加・21 梅木由紀・22 持留里奈・23 小原めぐみ・24 春田陽子・25 平松明子・26 水迫友和) (共同)</p>	共同
				看護研究	<p>(概要) この科目では、看護者が関わる様々な現象やケアの効果を科学的な手法により解明していく意義とその実践について学ぶ。 (共同 (一部) /全15回) (2 中馬成子/7回) 看護職が研究を行うことの意義、研究倫理、研究プロセス、文献検索とクリティーク、研究のデザイン・方法、データの分析、論文の書き方と発表の仕方などの一連の事項について学び、看護の研究者としての基礎的能力を獲得する。 (2 中馬成子・15 有村優子・17 一宮絵美/8回) (共同) 実際に、グループで関心のあるテーマについて文献検索し、論文の効果的なクリティークの仕方を体験的に学ぶ。また、リサーチ・クエスチョンの設定の仕方、リサーチ・クエスチョンの解決のための研究方法の検討を行い、グループで研究計画書を作成できるようになる。</p>	共同 (一部) 講義：14時間 演習：16時間
				卒業研究Ⅰ	<p>(概要) 各自の関心のある看護学領域におけるテーマを科学的に解明するための研究計画書を作成する。具体的には、文献検索し、文献クリティークを実施し、文献レビューを作成する。そして、リサーチ・クエスチョンを設定し、リサーチ・クエスチョンを解明するための研究方法とデータ分析法を企画することにより、研究計画書を作成する。これらの研究計画の作成過程の各段階で、卒業研究ゼミにおいて、各自の計画書を発表・検討し、自身の研究計画書を推敲するとともに、他ゼミ生の研究テーマの研究計画の検討に参加し、研究マインドを育成する。 (1 堤由美子・2 中馬成子・3 米増直美・4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・7 河口朝子・8 丹羽さよ子・9 塩満智子・10 稻留直子・11 中俣直美・12 武重希子・13 安藤光子・14 小玉博子・15 有村優子・16 西頭知子・18 野中弘美) (共同)</p>	共同
				卒業研究Ⅱ	<p>(概要) 各自の研究計画に基づいて調査した結果を分析・検討し、卒業論文を作成する。また、それらのプレゼンテーションのための準備を行い、実際に聴衆の前で発表し、研究成果について意見交換を行う体験を通して、研究成果を発表することの意義を実践を通して学ぶ。これらの卒業研究の作成過程、及び研究発表の準備の各段階で、卒業研究ゼミにおいて、各自の成果を発表・検討し、自身の卒業論文を推敲するとともに、他ゼミ生の卒業研究と研究発表資料の検討に参加し、研究マインドを育成する。 一連の研究活動を通して、よりよい看護実践のために探求し続ける姿勢を身につけられるようにする。 (1 堤由美子・2 中馬成子・3 米増直美・4 鳥越郁代・5 佐々木くみ子・6 山田巧・7 河口朝子・8 丹羽さよ子・9 塩満智子・10 稻留直子・11 中俣直美・12 武重希子・13 安藤光子・14 小玉博子・15 有村優子・16 西頭知子・18 野中弘美) (共同)</p>	共同  DPS:学習成果評価の重要科目

看護学科 専門教育科目	看護探 究科目	看護探 究	看護	看護キャリア発 達論	<p>(概要) この科目では、卒業後に社会人として、看護職として、どのような発達過程をたどるとされているのかを理解し、看護職として生涯を通して学び続ける必要性を理解する。そして、国内外で活躍している先輩看護職から、自身の看護職としてのキャリア開発に関する語りを聴講し、国際・地域社会の変化に対応し、自己を高める努力を続けている看護職としての多様な在り方と、地域貢献の仕方があることを理解し、自らのキャリア発達について検討、展望できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式・共同 (一部) /全15回)</p> <p>(1 堤由美子/5回)</p> <p>キャリア発達の過程を理解し、看護として専門性を発達させることの意義を検討し、生涯にわたる自己研鑽の必要性を理解できるようにする。また、新人期における職場適応過程とその重要性について、研究知見を基に講義し、新人期における職業的・組織的社会化への適切な対応の仕方を検討できるようにする。</p> <p>(2 中馬成子/2回)</p> <p>看護職のキャリア開発のための卒業後継続教育システム、その現状や課題についても学び、自身のキャリア開発について検討できるようにする。</p> <p>(4 鳥越郁代/3回)</p> <p>諸外国 (イギリス、オーストラリア、アメリカ) における看護職の役割、またキャリア開発のための教育システムの現状について学び、看護職の活躍の場の多様性を理解し、自身のキャリア開発について検討できるようにする。</p> <p>(1 堤由美子・4 鳥越郁代/5回) (共同)</p> <p>国内外で活躍する先輩看護師のキャリア開発に関する語りを傾聴し、自身の卒業後のキャリア開発について検討できるようにする。</p> <p>(予定しているゲストスピーカー：専門看護師、JNP、認定看護師、ジェネラリスト、看護管理者、海外や離島などで活躍する看護職など)</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部) 講義：14時間 演習：16時間</p> <p>DP14: 総合実践能力評価の重要科目</p>

## 学校法人津曲学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鹿児島国際大学				→	鹿児島国際大学				
経済学部					経済学部				
経済学科	200	—	800		経済学科	<u>170</u>	—	<u>680</u>	定員変更(△30)
経営学科	180	—	720		経営学科	<u>150</u>	—	<u>600</u>	定員変更(△30)
福祉社会学部					福祉社会学部				
社会福祉学科	100	—	400		社会福祉学科	<u>90</u>	—	<u>360</u>	定員変更(△10)
児童学科	120	—	480		児童学科	120	—	480	
国際文化学部					国際文化学部				
国際文化学科	120	—	480		国際文化学科	<u>115</u>	—	<u>460</u>	定員変更(△5)
音楽学科	35	—	140		音楽学科	<u>30</u>	—	<u>120</u>	定員変更(△5)
					看護学部				学部の設置(認可申請)
					看護学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	
計	755	—	3,020		計	755	—	3,020	
鹿児島国際大学大学院				→	鹿児島国際大学大学院				
経済学研究科					経済学研究科				
博士前期課程(修士課程)	10	—	20		博士前期課程(修士課程)	10	—	20	
博士後期課程	3	—	9		博士後期課程	3	—	9	
福祉社会学研究科					福祉社会学研究科				
博士前期課程(修士課程)	10	—	20		博士前期課程(修士課程)	10	—	20	
博士後期課程	3	—	9		博士後期課程	3	—	9	
国際文化研究科					国際文化研究科				
博士前期課程(修士課程)	10	—	20		博士前期課程(修士課程)	10	—	20	
博士後期課程	3	—	9		博士後期課程	3	—	9	
計	39	—	87		計	39	—	87	